

デジタル化された社会で変わる 行政・防災のDX

神奈川県 CIO 兼 CDO（情報統括責任者兼データ統括責任者）

防災DX官民共創協議会 専務理事 / AI防災協議会 理事
耐災害デジタルコーディネーションセンター 代表理事
全国SNSカウンセリング協議会 理事長

江口 清貴

江口 清貴

神奈川県 CIO兼CDO(情報統括責任者兼データ統括責任者)

神奈川県横浜市 DXアドバイザー /他自治体
神奈川県立病院機構 顧問

防災DX官民共創協議会 専務理事 / AI防災協議会 理事
SNSコンサルティング協議会 理事長
耐災害デジタルコーディネーションセンター 代表理事
行政デジタル改革共創会議(デッカイギ) 副委員長
国研)防災科学技術研究所 客員研究員
国際大学グローバルコミュニケーションセンター フェロー

LINEみらい財団 代表理事 / Yahoo!基金 理事



防災DX官民共創協議会の概要

- 防災DX官民共創協議会は、デジタル庁の呼びかけで、防災分野におけるデータ連携等の推進を通じた住民の利便性の向上を目指し、防災分野のデータアーキテクチャの設計やデータ連携基盤の構築等の検討を行う協議会として2022年12月に発足

《目的》

災害による国民一人ひとりの被害・負担の軽減に資する平時・有事の防災DXのあり方を、民が主体的・協調的に追求し、官民共創により実現する。

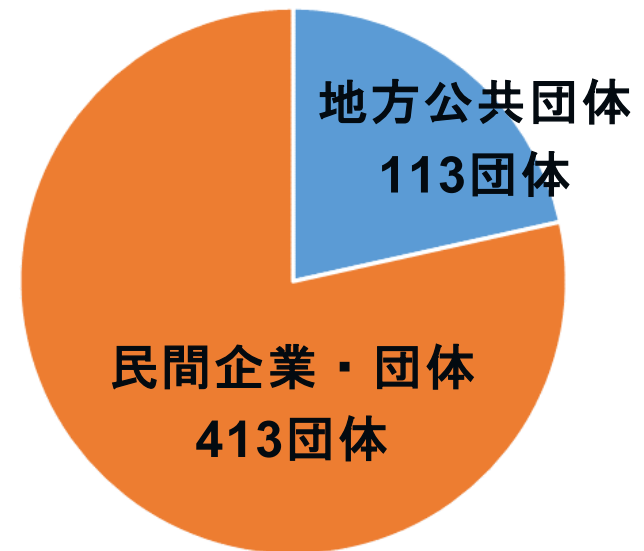
《ミッション》

①課題特定	防災DXの定義や課題を整理し、官民・民民共創による解決の方向性を導出する。
②基盤形成	防災DXの実現に不可欠な「データ連携基盤」のあり方を、上記の課題特定に基づき官民共創で検討し、その構築に向けて必要な施策を住民・自治体の目線から提言する。
③市場形成	防災DXの実現に資するアプリケーション・サービスの開発・流通を促進し、そのエコシステム・市場を官民で共創する。
④災害対応	国内における災害発生においては、課題特定、基盤形成及び市場形成を目的として、協議会会員の有志による活動を軸として、多方面の関係者との協業により具体的な災害対応を行う。



総会員数 526団体

(2025年4月25日現在)



2019年台風15号災害
災害対策本部@千葉県庁
災害時情報集約支援T



ちなみに
ダイヤモンドプリンセス号
船内でも支援していました



@厚生労働省
コロナ本部クラスター班



LINE使ってる方は
おぼえてますか？



第2回 4/5(日)～4/6(月)

「新型コロナ対策のための全国調査」

LINE



先日は第1回調査へご協力をいただき誠にありがとうございました。続いて第2回調査ご協力をお願いします。1回目と同様の内容ですが、分析でそれぞれの時点の間の分布変化を把握するためにお聞きしています。短期間での何度も実施でご負担をおかけしますが、少しでも早くこの状況を改善に向けて、みなさまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

[第2回調査について](#)

Q. 現在の体調について教えてください

普段通り

37.5度以上の発熱

のどの痛みや、強いだるさ

せきがある

それ以外の不調あり

選択いただいた内容は、当社において個人を識別できない形で統計化したうえで、公開されることがあります。取得した情報は本目的における分析・調査の終了後、速やかに破棄されます。（選択後に調査ページに遷移します）

13:24

行政デジタル改革共創会議

デジタルイキ

2025.1.10.(FRI) - 1.11.(SAT)

お疲れさまです2025迎春

旅のしおり

[トップ](#) [開催概要](#) [プログラム](#) [協賛企業](#) [運営体制](#) [新着情報](#)

001100100 00110010000110010 0111 01 011 0100 011010001 1001100011001
1001110111 1111101101001111 00 1 0 111 011 100101100 1110011111110
1100011011 11011110 1111100 10 1 1 10 1111 0110 1011110110111

防災庁設置準備アドバイザー会議の立ち上げの趣旨

- 世界有数の災害発生国である我が国において、人命・人権最優先の『防災立国』を早急に実現する。防災業務の企画立案機能を飛躍的に高め、平時から不断に万全の備えを行う、「**本気の事前防災**」に徹底的に取り組むとともに、**災害発生時の司令塔機能**を抜本的に強化するため、令和8年度中の防災庁設置に向けた検討を行う。
- 「防災庁設置準備アドバイザー会議」を立ち上げ、政府として強化すべき防災施策の方向性と、そのために必要な組織体制の在り方について議論する。

防災庁設置準備アドバイザー

(五十音順)

- 石井 美恵子 国際医療福祉大学大学院 災害医療分野 教授
 臼田 裕一郎 国立研究開発法人防災科学技術研究所 社会防災研究領域長 兼 総合防災情報センター長
- 江口 清貴 神奈川県情報統括責任者 (CIO) 兼 データ統括責任者 (CDO)
 大木 聖子 慶應義塾大学 環境情報学部 准教授
 片田 敏孝 東京大学 大学院情報学環 特任教授
 加藤 孝明 東京大学 生産技術研究所 教授 兼 社会科学研究所 特任教授
 河田 恵昭 関西大学 特別任命教授 兼 社会安全研究センター長
 喜連川 優 情報・システム研究機構 機構長/東京大学 特別教授
 栗田 暢之 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 代表理事/NPO法人 レスキューストックアート 代表理事
- 阪本 真由美 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授
 菅野 拓 大阪公立大学 大学院文学研究科 准教授
 鈴木 哲夫 ジャーナリスト
 高橋 良太 全国社会福祉協議会 地域福祉部長/全国ボランティア・市民活動振興センター長
 榛沢 和彦 新潟大学 医歯学総合研究科 特任教授
 坂 茂 建築家/芝浦工業大学特別招聘教授
 廣井 悠 東京大学先端科学技術研究センター教授
- ◎ 福和 伸夫 名古屋大学 名誉教授
 明城 徹也 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 理事 兼 事務局長
 山本 尚範 名古屋大学医学部附属病院 救急科 診療科長
 矢守 克也 京都大学 防災研究所 教授 兼 副所長

◎ 主査、○ 副主査

災害対応力の抜本的強化の方向性

- **本気の事前防災**
～防災業務の企画立案機能の抜本的強化～
- **災害事態対処、被災地の復旧・復興における司令塔機能の抜本的強化**

(重点的に取り組む事項)

- ▶ 被災者が安心して過ごせる避難生活環境・備蓄体制の抜本的改善
- ▶ 災害専門ボランティア等の育成強化、防災教育の充実など官民連携による災害対応力・地域防災力の強化
- ▶ 情報連携・共有強化などの防災DXのさらなる推進

※ その他、近年の災害における教訓や環境変化を踏まえ、政府として防災機能を強化すべき事項

検討期間

令和7年1月～令和7年夏頃

1

DXって何なんだ！？



DX = Digital Transformation?



DX = Digital Experience



YES, Digital TRANSFORMATION!!



1861年



1925年



1953年



1976年



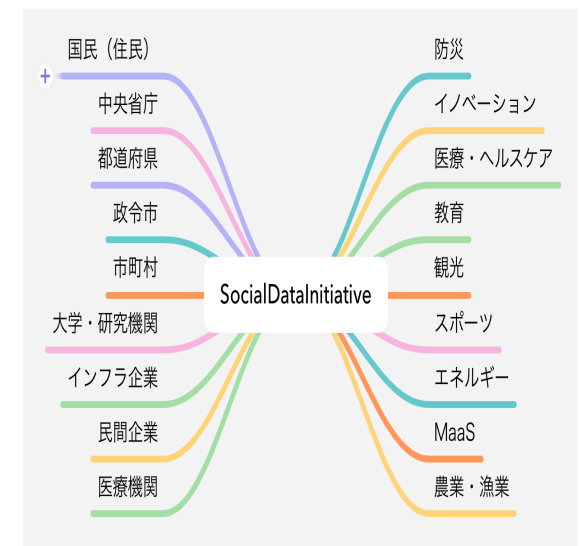
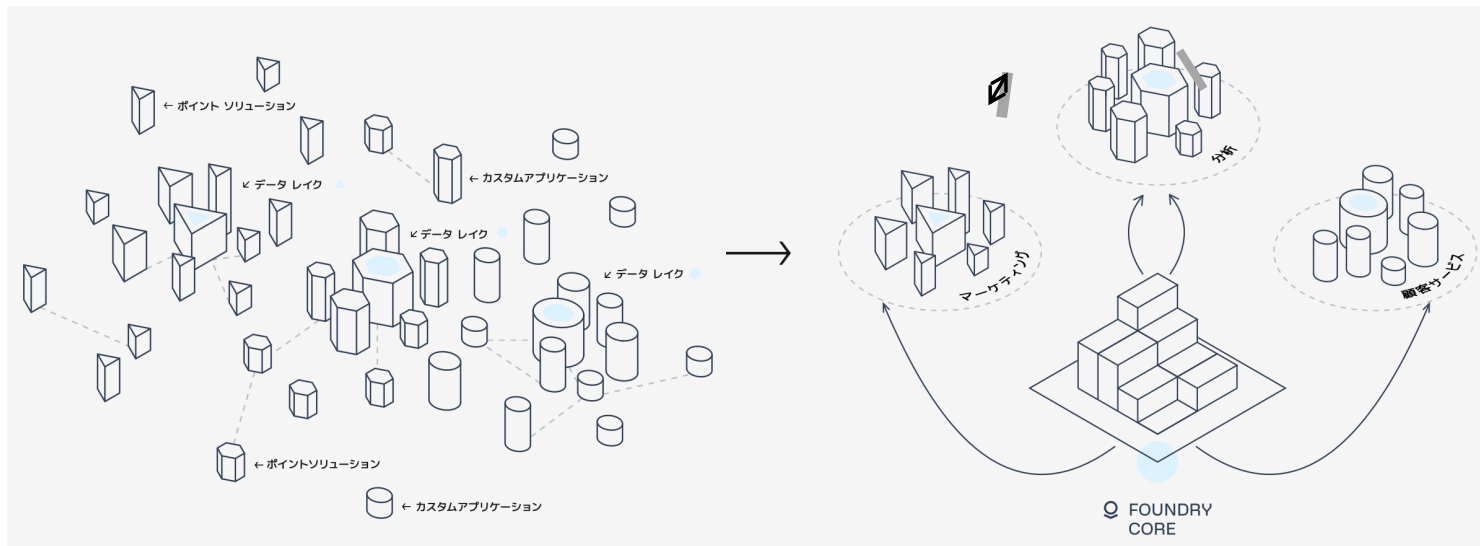
2006年



**情報流通量が飛躍的に増大し
時間や位置に依存しない環境が出現**

自治体 DX の一丁目一番地は、データの利活用

- ・ 仮にシステムアプリケーションが各所バラバラに構築されたとしても、生み出されるデータは共通利用すべき
- ・ バラバラに存在するデータレイクからデータを集約取得し、各所で共同利用出来るスキーム構築が良いと考える
- ・ データを各社事業領域で囲い込む戦略から、データを共同で利用し国家全体で底上げして諸外国に対抗する

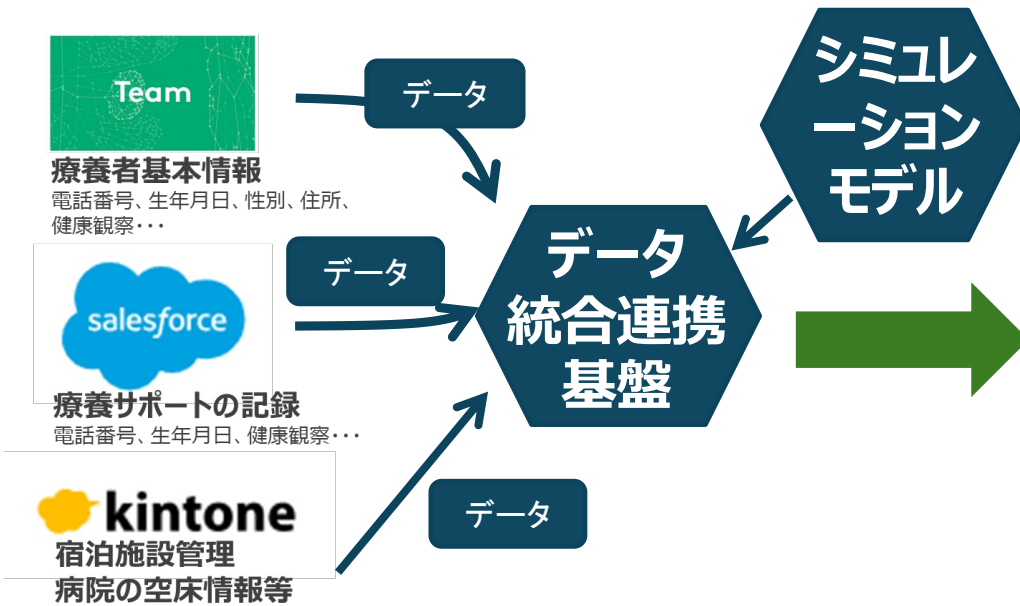


基本、データはGive and Take。「give」は自分のところから何かを出す。「take」は自分のところに何かを取り込む。
ギバー(人に惜しみなく与える人)、テイカー(真っ先に自分の利益を優先させる人)、マッチャー(損得のバランスを考える人)

例えば、コロナ対策でのデータ利活用事例

【取組例】 新型コロナ・予測モデルによる重症者数等シミュレーション

県が保有するコロナ関連データと人流データなど約50種をデータ統合連携基盤上で統合し、コロナ感染予測シミュレータをSHI(ヘルスイノベーションスクール)と共同開発



予測モデルによるシミュレーション

神奈川県全体の重症者数、入院者数、療養者数について、今後の推移を予測しました。

(1) 重症者

【合計】 2021年9月5日時点の推計（イメージ）重症者数の実績と今後の14日間の予測推移



新型コロナウイルス対策本部会議で予測値を使用、県HPにモニタリング指標として掲載

自治体各組織が個別にシステムを構築しようとしていること

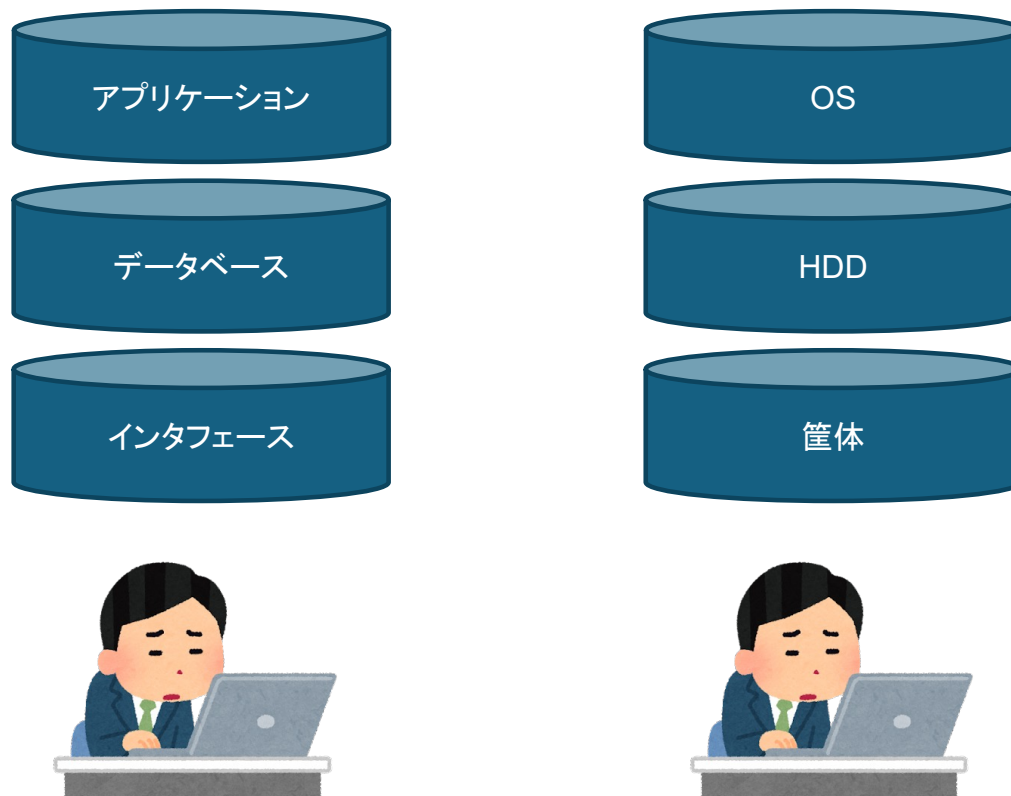
- ・ システム2000個問題が進行中で、個別に閉じたシステムが、各所でバラバラに企画されている。
- ・ システムがバラバラでできあがることによって、データの共有化に支障が出る可能性。

自治体各組織が慢性的にICT人材が確保出来ていないこと

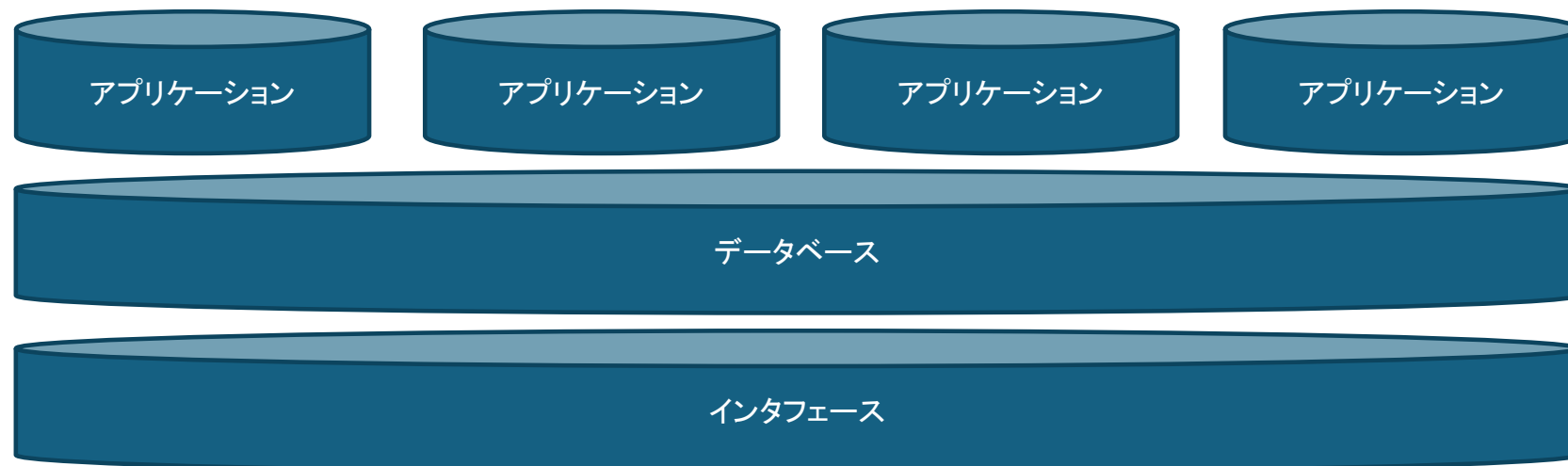
- ・ 地方自治体でのICT人材確保は非常に難航している。少ない人数を組織横断で利活用することが必要
- ・ 地方自治体で、人材プールと、人材の共同利用を検討。

データ共同利用のルール整備が出来ていないこと

- ・ 自治体内部局から部局へのデータシェアがいまでも出来ていない。市町村間でも同様。
- ・ 自治体から他自治体への情報共有が出来る仕組み（ルール整備やPermission等）が必要
- ・ そもそものデータ取得時からPermissionをきちんと取得し、データを正々堂々と利活用出来る仕組みの整備









デジタルによって、

- ・ダイレクトに
- ・リアルタイムだけじゃ無く
- ・必要な時に必要なだけ
- ・意識せず当たり前
- ・無限に

つながる時代に。

まずは防災から

私が考える“防災DX”（2018年から言い続けていること）

すべては、人命を救うために

- ・ 住民を災害の危機から如何に未然に救うか。いままで出来なかったことがデジタルによって出来るようになる世界がある
- ・ 災害関連死を1人でも救うために何ができるか。いつ発災するかわからない状況で事前の準備が重要

そのために目指すべきは「救助が不要の世界」

- ・ そもそも該当者全員が事前に避難していれば、危機的状況になることはなく、救助は必要なくなる。→ 直接死も防げる
- ・ 災害関連死の抑止のためにも、被災者個人個人の状況を把握し続けることで、インシデント発生は防げる

事前防災→災害予測→事前避難→被害把握→復興支援

- ・ 事前防災の考え方は非常に重要。「未災コンセプト」。まるごと全部デジタル化で、復興フェーズの考え方を換えよう
- ・ 今はスマホの時代。デジタルだからこそ、個人ごとの状況に応じた避難指示を配信可能 → 自分ごと化

デジタル化された社会だからこそ今できることがある

- ・ 今までは荒唐無稽といわれてきた。デジタル化された社会で生み出される膨大なデータを駆使することで、1人でも死者を減らす
そのために今こそ防災DXが必要。地震雷火事大雨等自然災害に限らず、軍事事象やテロ等にも有効になる。
- ・ **防災DXの一丁目一番地はデータの利活用** ・ **SituationData重視から、PersonalData活用へシフトを**

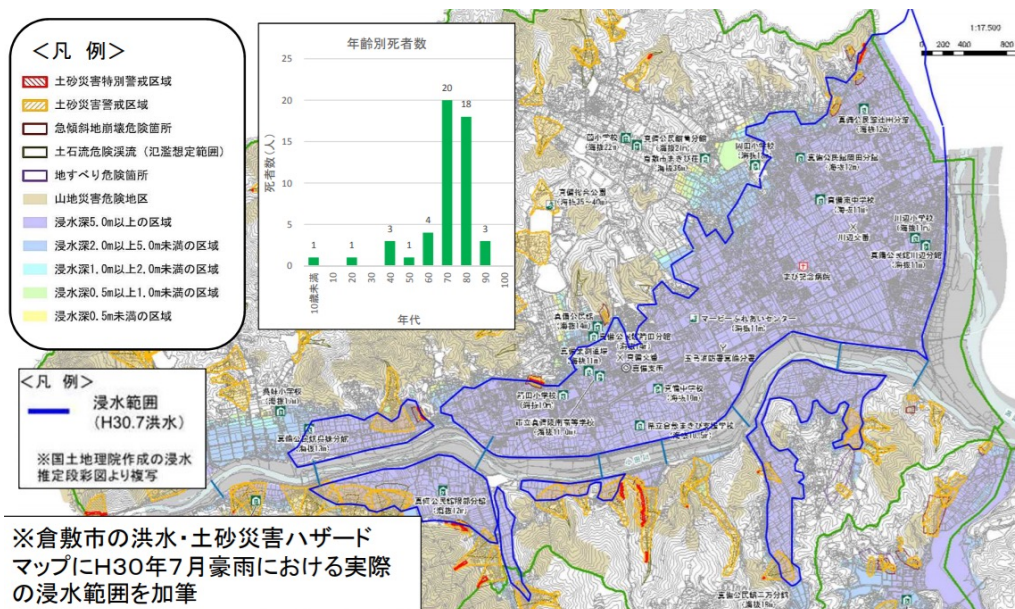
私が考える“防災DX”（デジタルで一気通貫処理）

各個人の状況に最適な避難情報配信による自分事化
→早期避難を促す →避難の決断を促す →直接死を最小化する

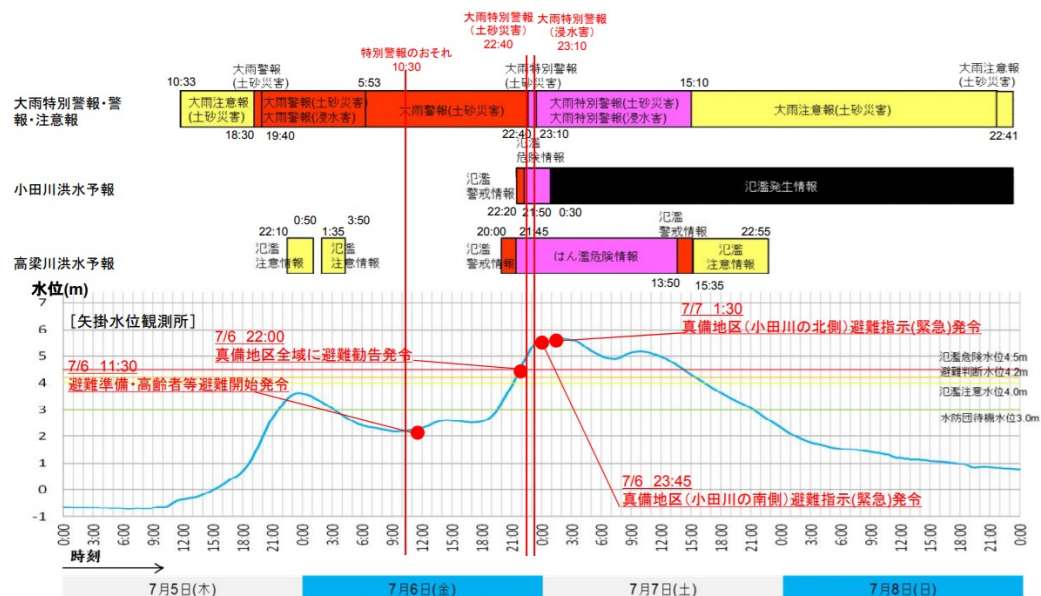


課題) 避難をどうやって促すか→自分事にしないと先に進まない

洪水浸水想定区域と実際の浸水範囲がほぼ一致
(倉敷市真備町)



防災スピーカーだけでは声は届かない



出典:国土交通省「平成30年7月豪雨災害の概要と被害の特徴」

http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/hazard_risk/dai01kai/dai01kai_siryou2-1.pdf

情報は極めて重要なツール

発災直後(発災から30分でいかに情報を集められるか)の被災情報は重要
例:行政「今大丈夫ですか?」→住民「大丈夫です」

発災直後
(発災～6時間)

超急性期
(6～72時間)

急性期
(72時間～1週間)

亜急性期
(1週間～1ヶ月)

慢性期
(1～3ヶ月)

慢性期
(3ヶ月以降)

発災直後の被災状況の把握困難。
また、情報混乱による、情報伝達遅延が
発生。これにより判断権者の判断が遅れ
るリスクも。
この情報空白をITで埋めることが肝要。

人命救助に極めて重要な72時間をいかに
効率的にリソースを動かすかが重要

復興初期が不満が一番噴出する時期。この
時期の被災者への情報提供は重要。

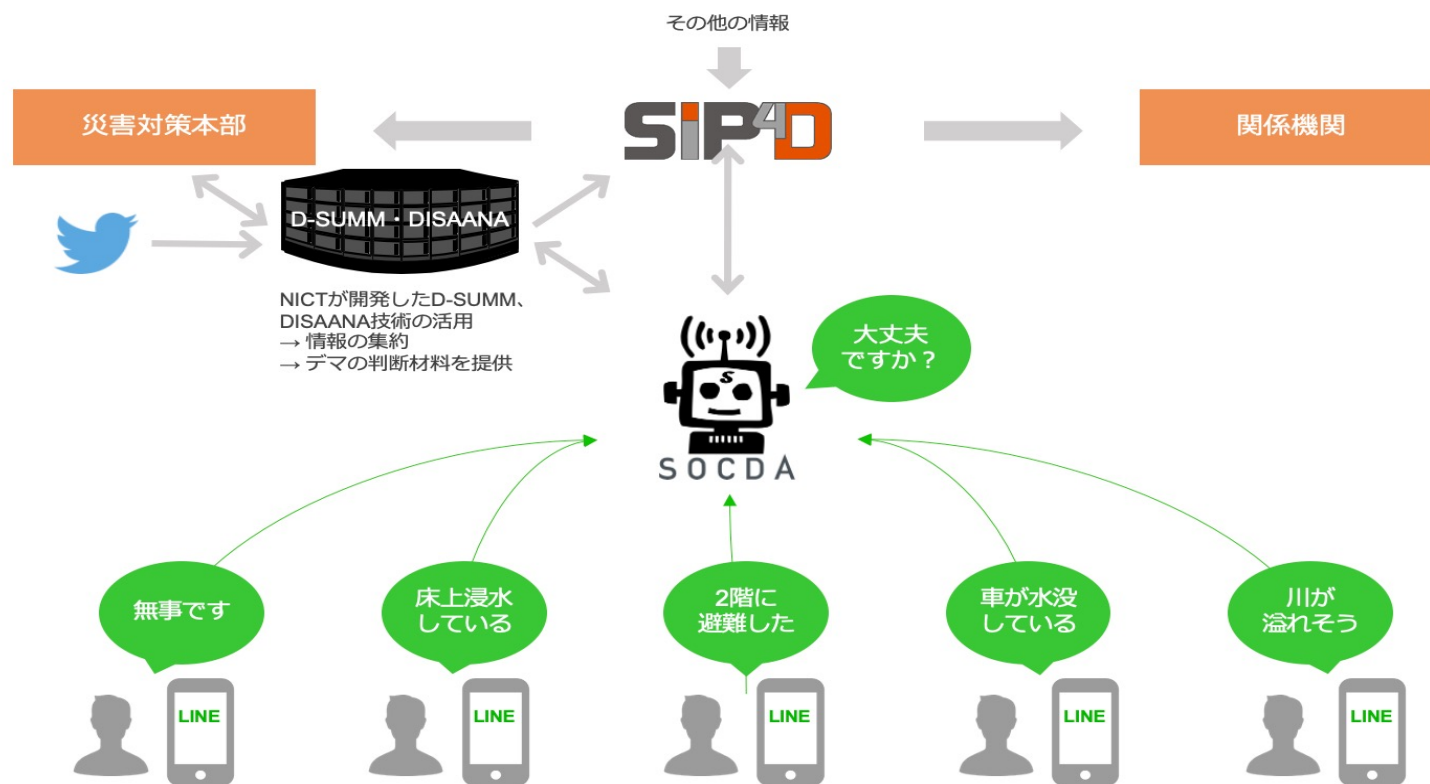
復興期の住民サービス改善が重要。
罹災証明事務の見直しにより、迅速な住
民生活基盤の復旧を自治体がデジタル
により支援することが重要。
自治体政府による復興支援は、避難該当
者が、きちんと避難していくモチベーシ
ョンにもつながるので、全力で。



Google Maps

コミュニケーション×AIによる情報収集（概要）

防災チャットボットによる情報収集



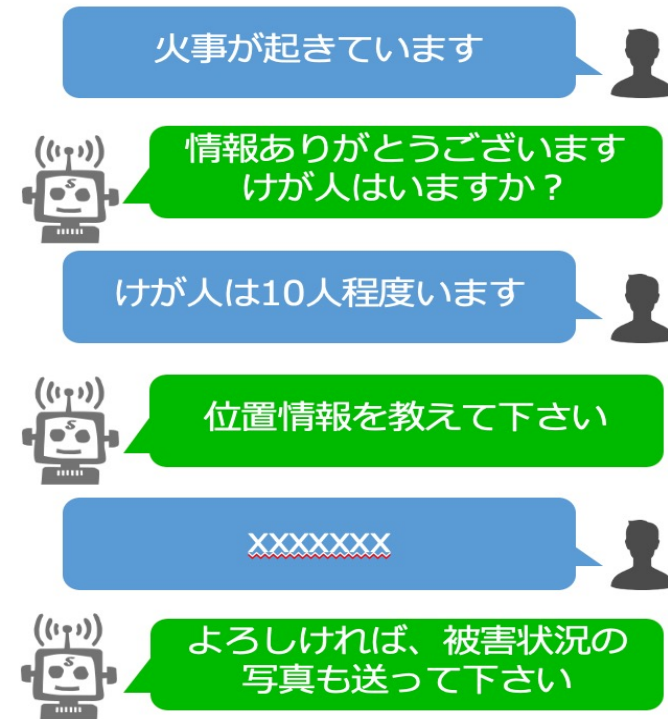
※ SIP4D = Shared Information Platform for Disaster Management（基盤的防災情報流通ネットワーク）

※ SOCDA = SOCial-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management（防災チャットボット）

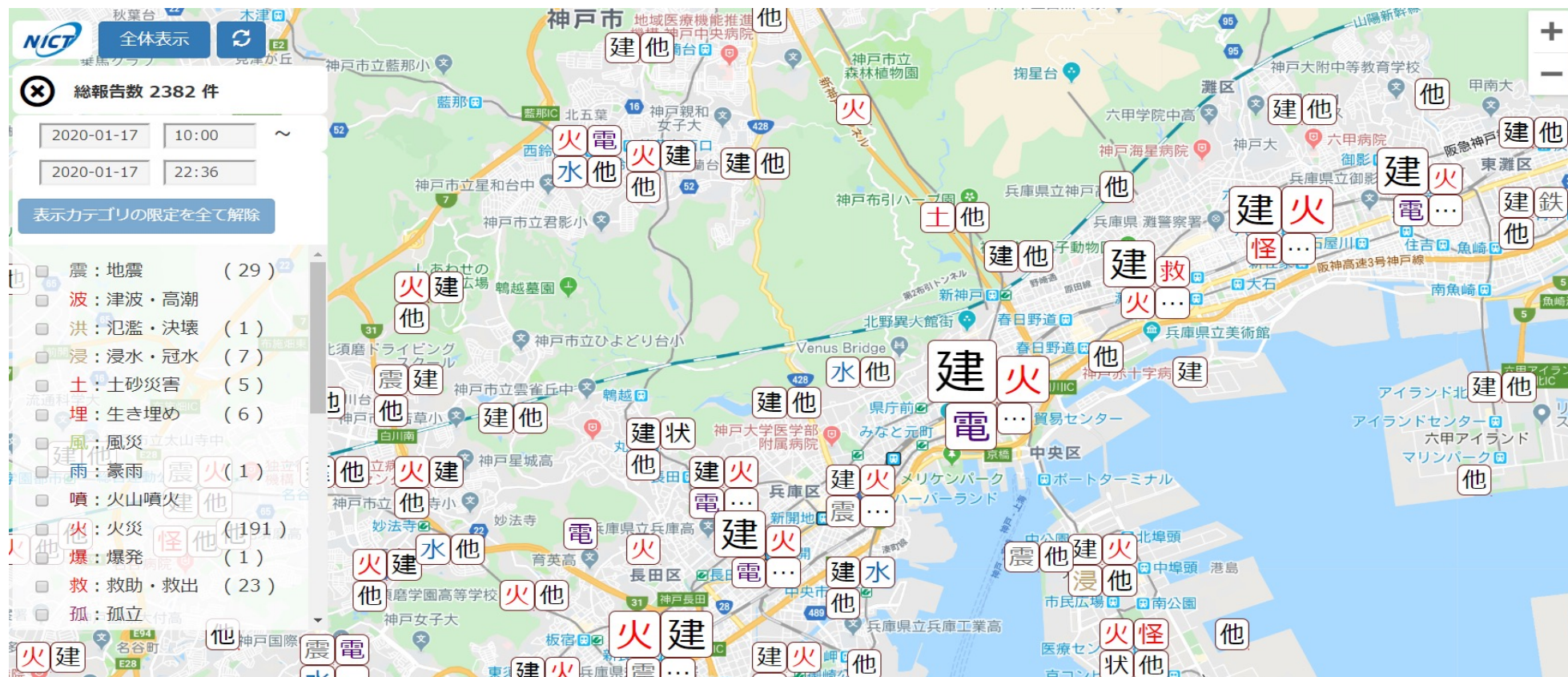
コミュニケーション×AIによる情報収集：AIチャットボットによる対話 防災チャットボットによる情報収集



出典：2018年12月21日に実施した神戸市におけるSIPチャットボットの実証実験結果より



デジタルで収集した情報をマッピングすることで情報空白地帯も明らかに



出典: AI防災協議会が2020年1月17日に実施した神戸市におけるSIPチャットボットの実証実験結果より。

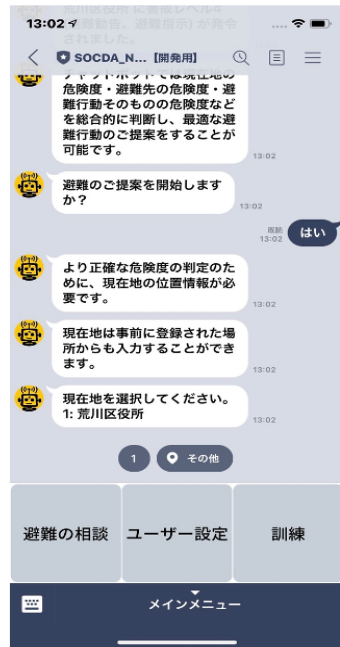
情報の集約・マッピングはNICT「D-SUMM / DISAANA」を利用

31 耐災害デジタルコーディネーションセンター

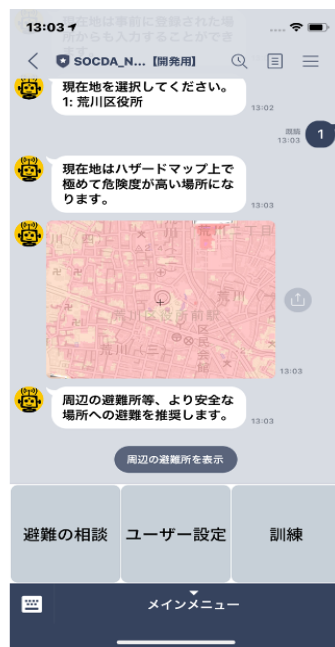
Disaster-response digital Intelligence support Team

防災チャットボットによる避難支援（AIによる対話例）

防災チャットボットによる情報収集

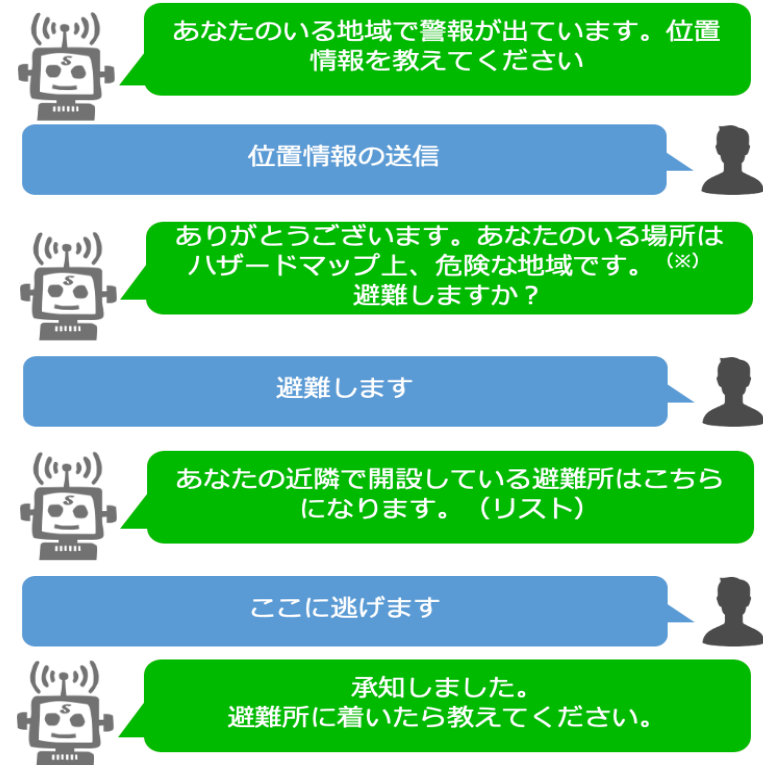


現在地情報を入力
(事前地点登録也可)



位置情報に基づいてハザードマップ
を確認。避難を推奨

出典：2020年8月に実施した訓練より



※ 住居の高度（〇階など）等を登録しておく、それに基づいた判断も実施可能

防災チャットボットによる避難支援

住民の属性にあわせて、被災状況をもとに適切な避難先を案内

複数市での避難状況を収集しパーソナライズ情報を提供（神奈川県の実証実験例）

住民の避難が進むと、避難所ごとに避難者数、避難予定者数が増えていき、避難所定員に達する避難所が出てくる状況を把握。
新しい避難所の開設判断や、隣の自治体と連携した広域避難が実現できることを確認。



県でも早期に避難所の状況を把握し、要請があれば応援に回れるよう準備。



③隣接の市と連携し、隣の市で避難者の受け入れを決定

※本実証実験は、2021年2月に神奈川県と県下の15市町の職員を対象に行い、住民役も職員が務めました。

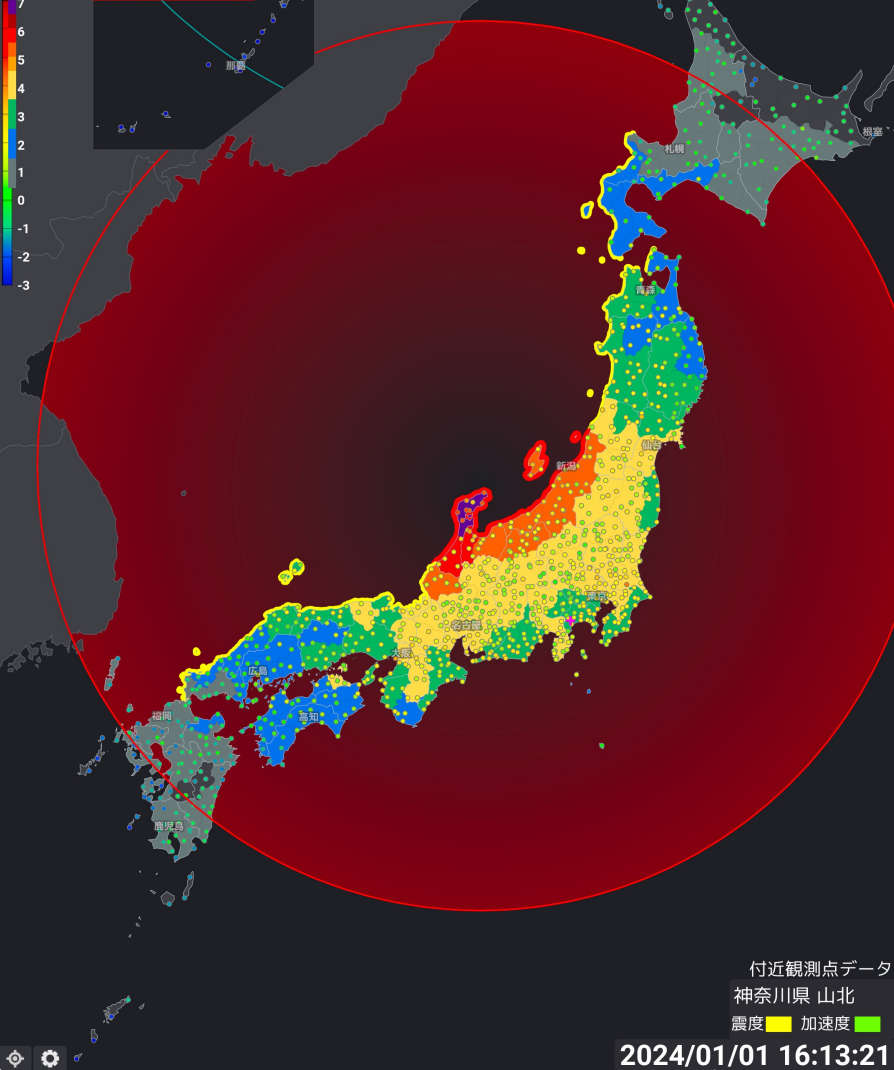
2023年10月23日
避難所DX実証w/デジ庁
@小田原合同庁舎



緊急地震速報 (警報) 第42報

予想最大震度 **7** 能登半島沖
2024/01/01 16:10:08 発生
M7.4 深さ: 10km

津波警報発表中



震源 調査

最大震度 **6+**
2024/01/01
5+ 石川県能登地方
2024/01/01 16:06

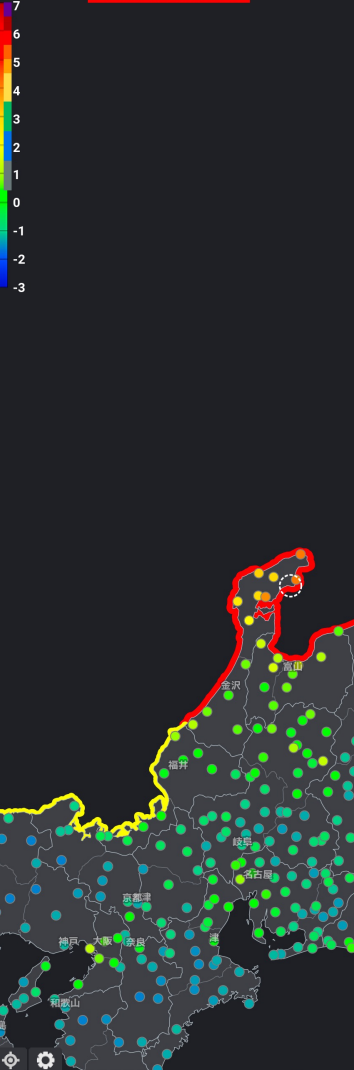
津波警報発表中

1	青森県東方沖	2024/01/01 08:15
1	奄美大島北東沖	2023/12/31 23:37
2	岩手県沖	2023/12/31 07:39
1	日高地方西部	2023/12/30 15:07
1	トカラ列島近海	2023/12/30 11:21
1	秋田県沿岸北部	2023/12/30 08:45
1	沖縄本島近海	2023/12/29 22:34
1	徳島県南部	2023/12/29 00:47
1	富山湾	2023/12/29 00:13
2	奄美大島近海	2023/12/28 23:45
2	青森県東方沖	2023/12/28 22:16
3	択捉島南東沖	2023/12/28 18:15
1	岐阜県美濃中西	2023/12/28 18:03
1	岩手県沖	2023/12/28 17:56
1	茨城県沖	2023/12/28 16:10
1	沖縄本島近海	2023/12/28 03:45
1	トカラ列島近海	2023/12/28 01:07
1	石川県能登地方	2023/12/27 22:47
2	福島県沖	2023/12/27 16:08
1	トカラ列島近海	2023/12/27 14:40
1	薩摩半島西方沖	2023/12/27 14:07
1	トカラ列島近海	2023/12/27 13:07
3	浦河沖	2023/12/27 07:54
1	薩摩半島西方沖	2023/12/27 05:17
1	トカラ列島近海	2023/12/27 02:07

緊急地震速報 (予報) 最終報

予想最大震度 **3** 石川県能登地方
2024/01/01 16:17:01 検知
PLUM法による仮定震源要素

津波警報発表中



石川県能登地方

最大震度 **7**
2024/01/01 16:10
M7.4 深さ: ごく浅い

津波警報発表中

5+	石川県能登地方	2024/01/01 16:06
1	青森県東方沖	2024/01/01 08:15
1	奄美大島北東沖	2023/12/31 23:37
2	岩手県沖	2023/12/31 07:39
1	日高地方西部	2023/12/30 15:07
1	トカラ列島近海	2023/12/30 11:21
1	秋田県沿岸北部	2023/12/30 08:45
1	沖縄本島近海	2023/12/29 22:34
1	徳島県南部	2023/12/29 00:47
1	富山湾	2023/12/29 00:13
2	奄美大島近海	2023/12/28 23:49
2	青森県東方沖	2023/12/28 22:16
3	択捉島南東沖	2023/12/28 18:15
1	岐阜県美濃中西	2023/12/28 18:03
1	岩手県沖	2023/12/28 17:56
1	茨城県沖	2023/12/28 16:10
1	沖縄本島近海	2023/12/28 03:45
1	トカラ列島近海	2023/12/28 01:07
1	石川県能登地方	2023/12/27 22:47
2	福島県沖	2023/12/27 16:08
1	トカラ列島近海	2023/12/27 14:40
1	薩摩半島西方沖	2023/12/27 14:07
1	トカラ列島近海	2023/12/27 13:07
3	浦河沖	2023/12/27 07:54
1	薩摩半島西方沖	2023/12/27 05:17
1	トカラ列島近海	2023/12/27 02:07

能登で起きていたこと

能登半島地震の被災地で起きていたこと



通信障害



システム接続の壁



散在する避難者の把握



膨大な被災家屋調査

これらの課題解決には、「**防災DXの推進**」が不可欠

出典：神奈川県資料より一部改訂

Starlinkの有用性の再認識

発災直後から、電力供給、通信に問題が発生しているエリアの存在を確認
BDXとしてこの問題解決に資するため、ソフト面のみならずハード面でのサービス提供も検討
KDDIの協力を得てスターリンクを手配し、現地に投入

(1) 課題

電力・通信の途絶エリアが発生

衛星通信が有効だが、電力供給
途絶エリアでは利用困難

電源カーとしてHV車で機材運搬、
活用することを検討

(2) 取組

スターリンクを現地に設置



KDDIからスターリンク
を受け取り、被災地で
支援団体と一緒に設置

(3) 成果

1/5～愛知県消防、三重県いな
べ市消防、JVOAD、日本赤十字
社に計20台の通信機器を貸与

その後スペースX社、KDDI社が
350台の無償提供を実施

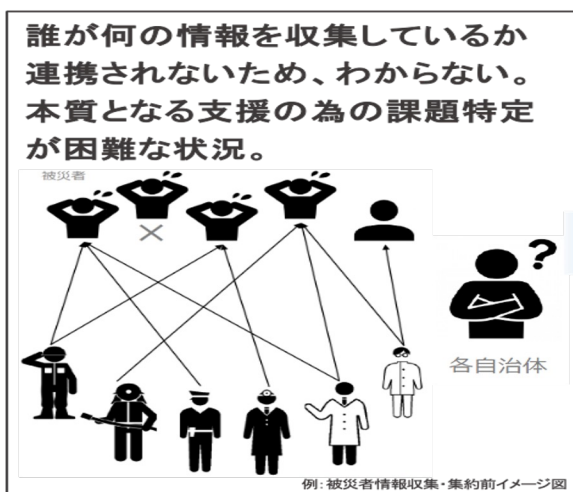
<https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2024/01/07/7171.html>

また、給電カーもBDX経由で9
カ所に設置し、衛星通信・非常
時電源の必要性、有用性が立証
された

～R6能登半島地震対応から～

令和6年能登半島地震での所感

- ・ 1月7日現地入り ⇒ 石川県庁へのデジタル支援開始 ⇒ 支援を受け入れる準備も必要
- ・ 災害時には様々な機関が動き個別に情報を収集し混乱要因に ⇒ 統制とは
- ・ 被災自治体は稼働力が落ちるが、災害対応事務等は爆発的に増加する ⇒ 少ない職員で対応
- ・ 防災DXでいうと、今回の現地デジタル支援活動は、産官学連携での問題解決成功事例ではないか
- ・ とにかく必要なデータが無い ⇒ 現地行くものの使える道具がない ⇒ なければ作るしかない
- ・ まず基軸となる（正）のデータを組み上げることは大事 ⇒ 普段からの関係構築も重要
- ・ **Information**からDataに。Dataから**Intelligence**へ変えていくことは重要 ← 目指すも未完





損保ジャパン

パランティア

神奈川県

三菱総研

SAP

東京海上

デジタル庁

防災科研

NTTデータ

NEC

ファストドクター

ウェザー
ニューズ

IOデータ

PwC

デロイト

スペクティ

石川県庁

北國銀行

石川県庁

LINEヤフー

石川県庁

石川県庁

今回、石川県が取り組んでいること（STEP1～3）



既存

今回の取り組み

STEP1

総合防災情報システム
(県)

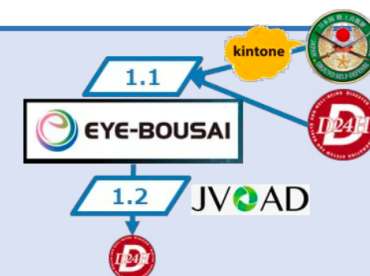


避難所情報

避難所情報

漏れのない「避難所データ」
(指定避難所、自主避難所、孤立集落 等)

場所と人数
を特定



STEP2

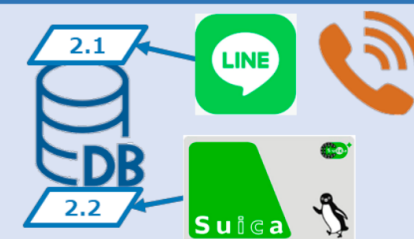


被災者情報

避難者情報

避難所に紐づけた
「避難者データ」収集
(名前、住所、年齢、性別、連絡先 等)

支援対象を特定



STEP3

被災者生活再建
支援システム (市町)

支援メニューの発信



生活再建支援

・迅速で効率的な支援
・罹災証明の発行
(書かない/行かない役所)

どこにいても
ニーズに応じた支援

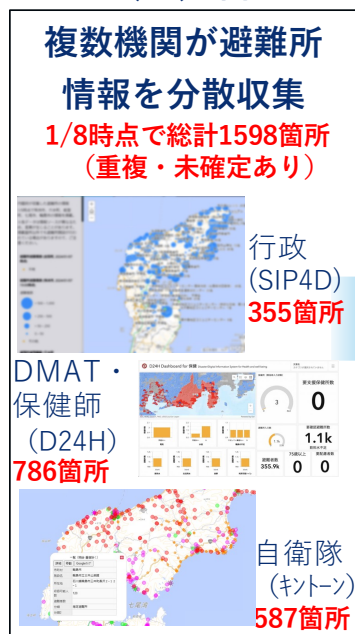


取組事例①

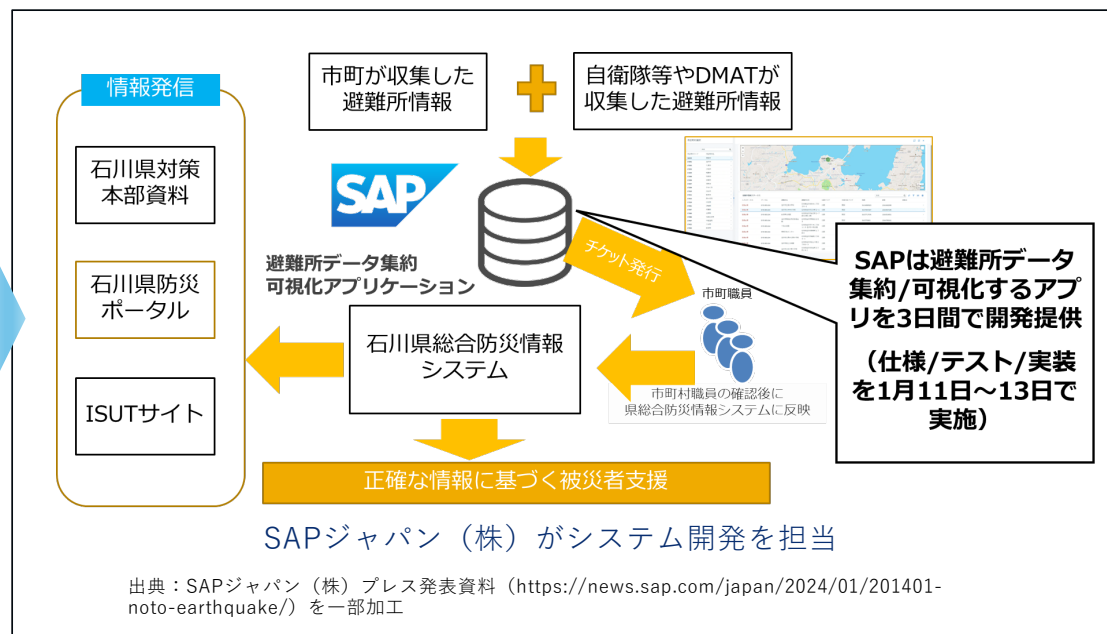
避難所情報統合システムの構築支援

- 市町、DMAT、自衛隊等が個別に収集し分散管理していた避難所情報の集約を支援
- 各避難所情報を県の総合防災情報システムで一元管理するための中間システム構築を支援
- 石川県のニーズを踏まえてダッシュボード機能を継続的に改善しながら運用中

(1) 課題



(2) 取組



(3) 成果



リセット

公開状態

☒ すべて

☒ 公開可

☒ 非公開

市町村

▼ ☒ (all)

> ☒ 石川県内

> ☐ 石川県外

> 凡例

避難者数推移

現在の避難者数

427

件

避難者数推移

現在の避難者数

9,868

人

市町村別スコアリング

市町村別アセスDの最大値と経過日数

珠洲市 14	能登町 8	志賀町 7
-----------	----------	----------

現在の避難所数

427

件

避難者数推移

現在の避難者数

9,868

人

市町村別スコアリング

市町村別アセスDの最大値と経過日数

珠洲市 14	能登町 8	志賀町 7
-----------	----------	----------

●開設されている避難所 ●過去10日間で開設された避難所 ●過去10日間で開設された避難所

●10日以上避難者数の報告がない避難所 ●アセスメントの見直しが必要な避難所

●避難者数の急激な増減があった避難所 ★D24Hにのみ登録済みの避難所 ●複数の条件に合致する避難所

●10日間で開設された避難所

●10日間で開設された避難所

●10日以上人数の報告がない避難所

●避難者の急激な増減があった避難所

●開設されている避難所 ●過去10日間で開設された避難所 ●過去10日間で開設された避難所

●10日以上避難者数の報告がない避難所 ●アセスメントの見直しが必要な避難所

●避難者数の急激な増減があった避難所 ★D24Hにのみ登録済みの避難所 ●複数の条件に合致する避難所

7件

三波公民館	-
岩手集会所	-
旧土田小学校	-
曾山集会所	-
田嶋浜体育館	-
県立田嶋浜高等学校	-
鶴川小学校	-

4件

皆口いちご園ビニールハウス	-
真浦（海老庄）	-
栗津ビニールハウス	-
hiyo hiyo	-

88件

金澤屋 昭和町	244
金澤屋 昭和町 402...	244
住吉公民館	69
上野公民館	68
上野公民館合宿分室	68
不動寺公民館	68
大平地区集会所	68
平山地区小学校	68
小本中学校	68
当目多目的研修センター	65
赤城コミュニティセン...	65
内浦分室2番	62
国重集会所	-

最終報告からの経過日数

施設名	経過日数
きわや交流広場ブルー...	-28
のじや	-30
みやびの館 加賀百万石	-11
ゆのくに天祥	-23
アパレルビル(金沢中央大)	-34
ニュー松任ターミナルホテル	-14
ホテルアローレ	-16
丸山（あずさなるファーム作業場）	-11
大江山温泉旅館	-41
宝立小中学校	-37
富栄活性化センター	-18
寺家川上本町集会所	-19
小本中学校	-11

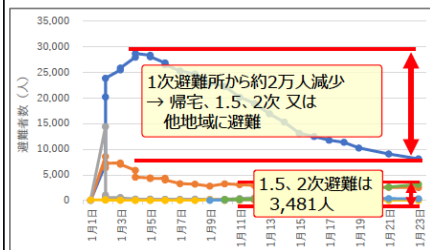
取組事例②

Suicaを活用した避難者情報の把握支援

- JR東日本の協力を得て、Suicaを活用した避難者情報把握のソリューションを開発
- 避難所での機器設置作業等も支援。志賀町の避難所にSuicaを先行配布・活用中
- 入浴施設の入浴用カードとしてもSuica配布・運用中（能登町、中能登町、七尾市、羽咋市、志賀町）

（１）課題

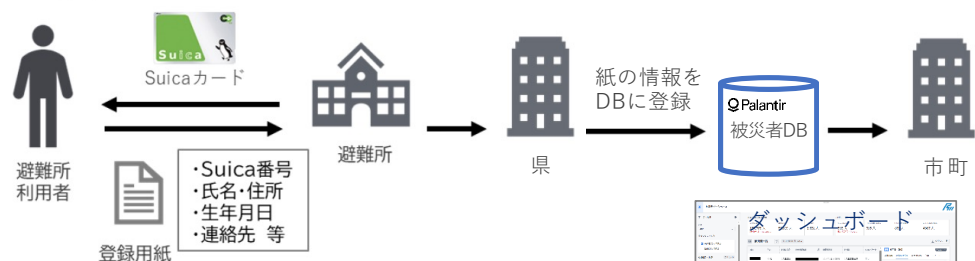
- 行政職員も被災
- 被災者が広域的に避難



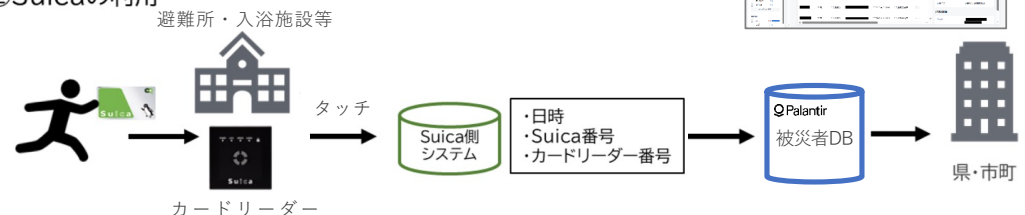
- 避難者情報の把握困難

（２）取組

①Suicaの配布・登録



②Suicaの利用



SOMPOホールディングス（株）の協力の下、Palantir Technologies Japan（株）がシステム開発を担当

（３）成果

- 避難者の所在や動きのトラッキング



- 避難者情報を個別かつ全体的に把握

→6/1時点で約13,000枚のSuicaを配布

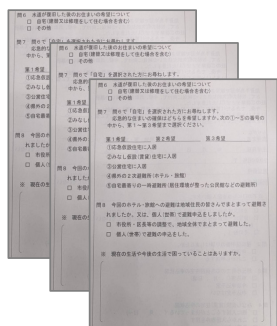
取組事例③

被災者訪問アセスメントのオンライン化支援

- 実施機関毎に異なっていた被災者訪問アセスメントの調査項目の統一化を支援
- 紙ベースで行われていたアセス情報入力をオンラインフォーム化（デジタル化）
- 各実施機関が収集・登録したアセス情報の集約・統合的把握を支援

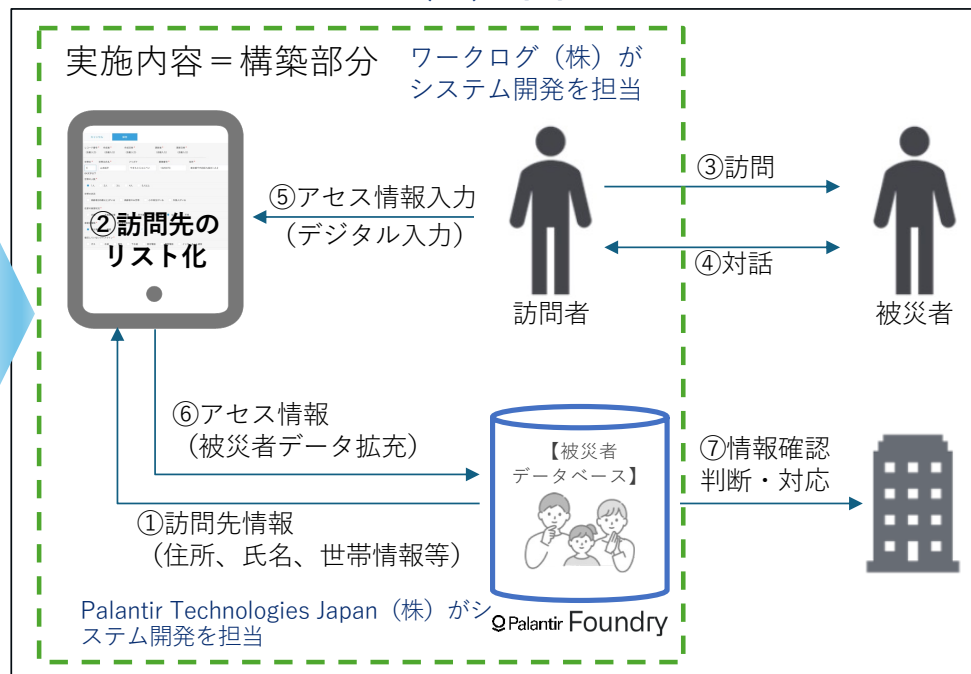
（１）課題

●紙ベースでのアセス



- 各実施機関のアセス項目が不統一
- アセス結果の統合的な把握が困難

（２）取組



（３）成果

●オンライン入力化、アセス実務の省力化

オンライン入力フォーム

- アセス結果の統合
→3/21時点で約4,900件のデータ登録
- 被災者特性に応じた適切な支援

取組事例④

被災者データベースの構築支援

- 県は、特に被害が甚大な6市町の被災者台帳を支援するため被災者DBを構築中
- 県・市町保有の各種名簿、Suica活用による把握情報、被災者アセス情報などを集約・統合管理する被災者DB構築を支援。機能改善しつつ運用中

(1) 課題

- 様々な種類・形式の被災者情報が分散

各種名簿等

氏名	石川花子
性別	女性
住所	石川県
避難先	A中学校
連絡先	〃



Suica情報 訪問アセス情報

- 集約・名寄せに多大な職員事務負担

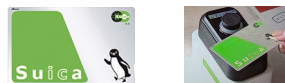
(2) 取組

県・市町が取得・収集している被災者に関する情報

避難者名簿、訪問情報等

複数の情報を組み合わせることで情報の信頼性が向上

被災者台帳の作成支援
① Suicaプロジェクト



現地登録情報（基本4情報＋所在地等）とタッチログ

避難所データ集約可視化アプリケーション



SAPに集約されたデータを市町職員がチェックし、マスターデータに登録



Palantir Foundry

被災者台帳の作成支援
② 被災者訪問アセスメント

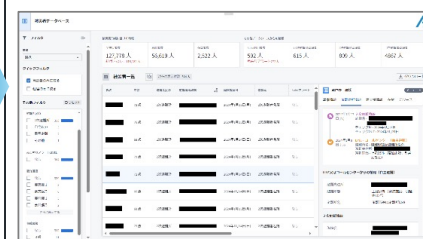


世帯情報、個人の要配慮情報等

Palantir Technologies Japan (株) がシステム開発を担当

(3) 成果

- 被災者データベースによる各種被災者情報の集約・管理



ダッシュボード

→ 合計10以上のシステム等からの被災者情報を名寄せ・統合（拡充中）

能登で実施したこと（被災者データベース）

被災者データベース

フィルタ

現在の表示数 124,760

クイックフィルタ

☐ 高齢者（65歳以上）に絞る

☐ 独居に絞る

☐ 情報への紐付きがない住民に絞る

キーワード検索

キーワード検索

発災時の市町

☐ 七尾市

48,274

☐ 輪島市

23,109

☐ 志賀町

18,261

☐ 能登町

15,189

☐ 珠洲市

12,577

さらに表示する

発災時の住所

避難先区分

検索

避難先市区町村

☐ 七尾市

43,896

☐ 志賀町

16,133

☐ 輪島市

16,116

☐ 能登町

12,911

☐ なし

10,275

さらに表示する

避難場所詳細

☐ なし

13,943

☐

6,510

☐ 石川県金沢市

2,401

☐ 石川県七尾市

593

☐ 石川県輪島市

429

さらに表示する

義援金申請有無

フィルタを追加

被災者台帳登録者数（2024年1月1日）

124,760 人

義援金申請確認済み人数

120,090 人

自主避難者登録数

13,315 人

LINE及びコールセンター

進捗：96.26%

現在の選択件数 0 件

選択したデータをエクスポート

<input type="checkbox"/>	氏名	フリガナ	生年月日	性別	世帯人数	義援金申請ステータス	LINE登録最新日時	識別番号	世帯番号	発災時の市町	発災時の住所
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 太郎</div></div></div>	イシカワ タロウ	1931年9月6日	女性	3	送金完了	なし	xxxxx	xxxxx	能登町	石川県能登町
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 花子</div></div></div>	イシカワ ハナコ	2004年1月8日	女性	4	送金完了	なし	0000000xxxxx	xxxxx	志賀町	石川県志賀町
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 一郎</div></div></div>	イシカワ イチロウ	2000年12月30日	女性	6	送金完了	なし	00000000xxxxx	xxxxx	珠洲市	石川県珠洲市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 二郎</div></div></div>	イシカワ ジロウ	1967年3月9日	男性	2	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	輪島市	石川県輪島市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 三郎</div></div></div>	イシカワ サブロウ	1945年3月28日	女性	2	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	七尾市	石川県七尾市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 四郎</div></div></div>	イシカワ シロウ	1948年6月2日	男性	1	送金完了	2024年2月27日(火)	000000xxxxx	xxxxx	七尾市	石川県七尾市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 五郎</div></div></div>	イシカワ ゴロウ	1938年2月23日	男性	1	送金完了	なし	0000000xxxxx	xxxxx	志賀町	石川県志賀町
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 六郎</div></div></div>	イシカワ ロクロウ	1967年6月27日	男性	3	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	輪島市	石川県輪島市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 七郎</div></div></div>	イシカワ シチロウ	1959年2月3日	男性	3	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	輪島市	石川県輪島市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 八郎</div></div></div>	イシカワ ハチロウ	2002年1月3日	女性	2	送金完了	2024年2月17日(土)	xxxxx	xxxxx	能登町	石川県能登町
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 九郎</div></div></div>	イシカワ クロウ	1936年9月19日	女性	1	申請未確認	なし	000000000xxxxx	xxxxx	穴水町	石川県穴水町
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 十郎</div></div></div>	イシカワ ジュウロウ	1953年5月25日	男性	3	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	七尾市	石川県七尾市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 次郎</div></div></div>	イシカワ ジロウ	1941年3月1日	男性	2	送金完了	なし	000000000xxxxx	xxxxx	珠洲市	石川県珠洲市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 三枝</div></div></div>	イシカワ サエグサ	1956年12月19日	女性	2	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	輪島市	石川県輪島市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 四季</div></div></div>	イシカワ シキ	1956年12月15日	女性	6	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	七尾市	石川県七尾市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 五木</div></div></div>	イシカワ イツキ	1965年10月3日	男性	3	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	七尾市	石川県七尾市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 六花</div></div></div>	イシカワ リッカ	1941年3月20日	女性	2	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	輪島市	石川県輪島市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 七海</div></div></div>	イシカワ ナナミ	1974年11月18日	女性	5	送金完了	なし	xxxxx	xxxxx	能登町	石川県能登町
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 八重</div></div></div>	イシカワ ヤエ	2003年2月12日	女性	4	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	七尾市	石川県七尾市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 九重</div></div></div>	イシカワ ココノエ	1975年8月15日	男性	8	送金完了	2024年4月18日(木)	000000000xxxxx	xxxxx	珠洲市	石川県珠洲市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 十和子</div></div></div>	イシカワ トワコ	1982年7月7日	女性	4	送金完了	なし	000000000xxxxx	xxxxx	輪島市	石川県輪島市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 光</div></div></div>	イシカワ ヒカル	1969年4月11日	男性	1	送金完了	なし	0000000xxxxx	xxxxx	志賀町	石川県志賀町
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 優</div></div></div>	イシカワ ユウ	2019年12月10日	女性	6	送金完了	なし	0000000xxxxx	xxxxx	珠洲市	石川県珠洲市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 美咲</div></div></div>	イシカワ ミサキ	1966年6月1日	男性	1	送金完了	なし	000000xxxxx	xxxxx	七尾市	石川県七尾市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 大輔</div></div></div>	イシカワ ダイスケ	1932年1月3日	女性	2	申請未確認	なし	0000000000xxxxx	xxxxx	珠洲市	石川県珠洲市
<input type="checkbox"/>	<div><div><div>石川 智也</div></div></div>	イシカワ トモヤ	2000年2月20日	女性	1	送金完了	なし	000000000xxxxx	xxxxx	七尾市	石川県七尾市

被災者分析

所属市町:

石川 太郎

詳細を確認

基本情報

現在地

義援金

見守り世帯

情報登録概要

義援金申請 2024年3月12日(火)

LINE/コールセンター

世帯情報

世帯主氏名

石川 太郎

元の世帯番号

xxxxxx

発災時の住所

石川県能登町

Title

性別

女性

続柄

世帯主

生

石川 太郎

女性

世帯主

15

石川 サチコ

女性

子

15

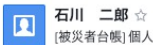
石川 智也

男性

子(子の夫)

15

能登で実施したこと



石川 二郎 ☆
[被災者台帳] 個人

概要 高齢者等把握事業 Suicaカード情報 義援金申請情報

被災者アラート

高齢者フラグ いいえ (65歳未満) 独居フラグ いいえ 未訪問アラート 2024年4月17日(水)

最新の避難場所情報

自宅避難

情報登録日：2024年4月17日(水)

義援金支給状況

送金完了

罹災証明発行状況

発行済

調査結果：なし

生活再建支援金交付状況

交付済

基本情報

生年月日 1967年3月9日
世帯主氏名 石川 太郎
住民状態コード 1
住民種別コード 1
国籍コード なし

世帯情報

市町 輪島市
現住所 石川県輪島市

氏名	フリガナ	続柄
石川 二郎	イシカワ ジロウ	子
石川 太郎	イシカワ ヒサシ	世帯主



時系列

- 2024年6月4日(火) Suicaタッチ記録
設置施設名・のとふれあい文化センター
現在の避難先・自宅避難
- 2024年5月22日(水) Suicaタッチ記録
設置施設名・のとふれあい文化センター
現在の避難先・自宅避難
- 2024年5月14日(火) Suicaタッチ記録
設置施設名・のとふれあい文化センター
現在の避難先・自宅避難
- 2024年5月7日 18:17 罹災証明書 (世帯共通)
- 2024年5月2日(木) Suicaタッチ記録
設置施設名・のとふれあい文化センター
現在の避難先・自宅避難
- 2024年4月17日(水) Suicaタッチ記録
設置施設名・のとふれあい文化センター
現在の避難先・自宅避難
- 2024年3月20日(水) 義援金申請書
避難場所・住宅・アパート等
避難都道府県・石川県
避難市区町村・金沢市
- 2024年2月20日 15:08 罹災証明書 (世帯共通)

能登で実施したこと

見守り事業 ケース会議支援アプリ

ケース会議選択
2024-06-01

世帯一覧

選択された世帯の詳細

世帯主 石川 太郎

概要

世帯アセス

個人アセス

連絡先

高齢者アセス

支援記録

アセスメントを選択してください。

Title	アセスメント世帯ID	記入日時	更新日時	訪問記録者
石川 太郎	WL-01710	2024年9月9日 9:00	2024年9月9日 9:20	高橋

対応履歴

2024年9月24日 10:30

担当者名・中山・高橋
対応内容・家の被害状況の調査を進めているところ。判定としては半壊の予定

2024年10月1日 11:15

担当者名・中山・高橋
対応内容・罹災証明を取得して、家の被害状況も確定したが判定に不満なため再度申請する予定

選択されたアセスメントの詳細

年齢	生年月日
66歳	1957年12月16日(月)

氏名 世帯主	石川 太郎	フリガナ 世帯主	イシカワ タロウ
生年月日 世帯主	1957年12月16日	性別 世帯主	男性
携帯電話		固定電話	
メールアドレス		本人以外の連絡先の場合チェック	
世帯の収入		その他入力欄 世帯の収入	
住民票の市町	七尾市	アセスの判定	分類1
アセスメント世帯ID	WL-01710		
現住所	石川県七尾市	住民票の住所	石川県七尾市石崎町
住まいの再建実現性	2	住宅再建の方針	
住家の被害状況	半壊	住民票の住所	石川県七尾市石崎町
分類2住まいの再建実現性	分類1	罹災証明	取得済み
被災前住所	石川県七尾市石崎町		
その他入力欄 要配慮事項		分類1日常生活の自立性	
日常生活の自立性	0	要配慮事項 任意	

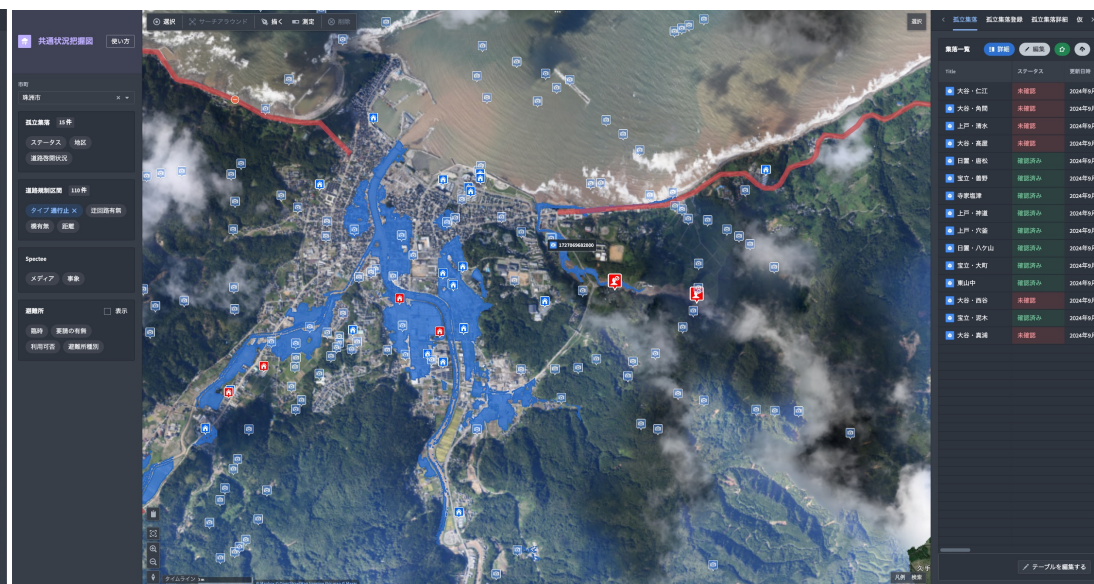
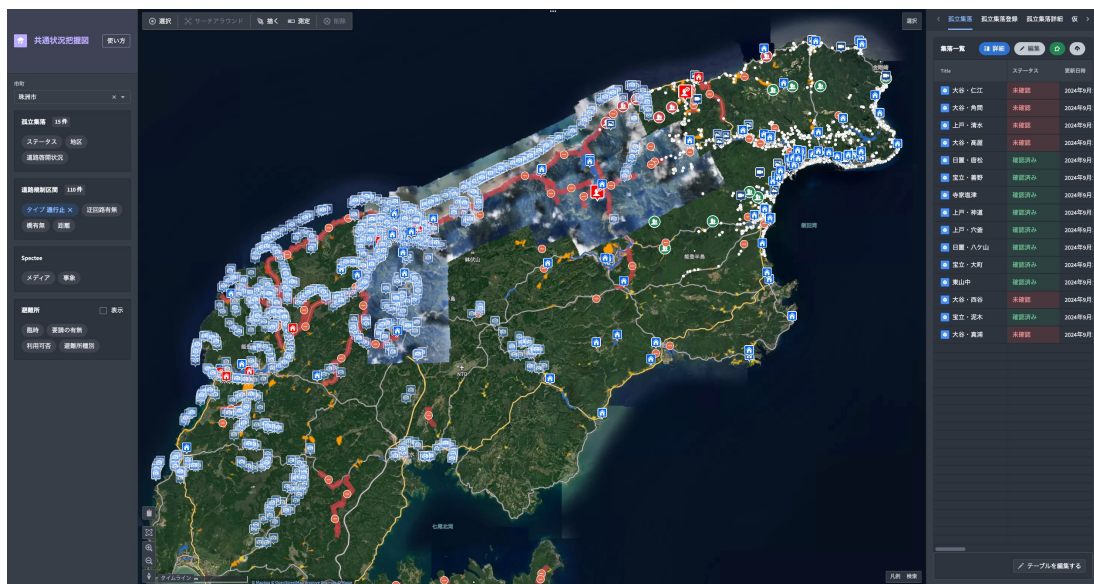
メモ）
もし、中央省庁の災害救助法等の通知類がオープンデータ化されるか可読性があるデータであると、支援メニューの正確性が激善する（[災害救助法通知の非公表問題](#)）

また複合災害における罹災証明書の住家被害認定の考え方も石川県内の内部通知にとどまり、これも支援者が目にできていないので、被災者や自治体職員へのアドバイスができないというNPOや支援専門団体からの悲鳴も検知。

能登で実施したこと（その後の豪雨災害でも） Situationデータの集約と可視化

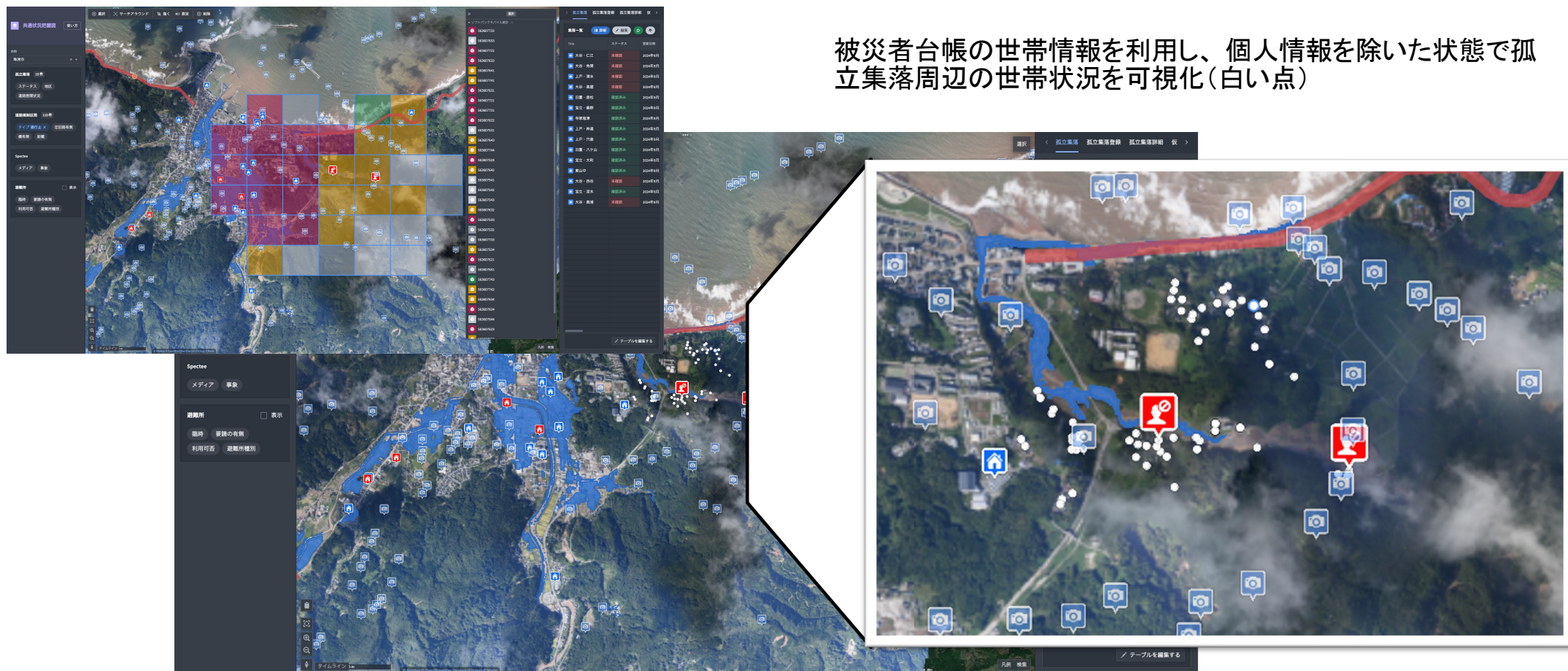
情報源が異なる大雨に関する情報（道路規制、航空写真、集落位置等）を一つのマップ上で可視化

行方不明者の住所、航空写真、ハザードマップ、衛生画像等複数の情報を一元的に表示



Situation Data x Personal Data の有効性の例示

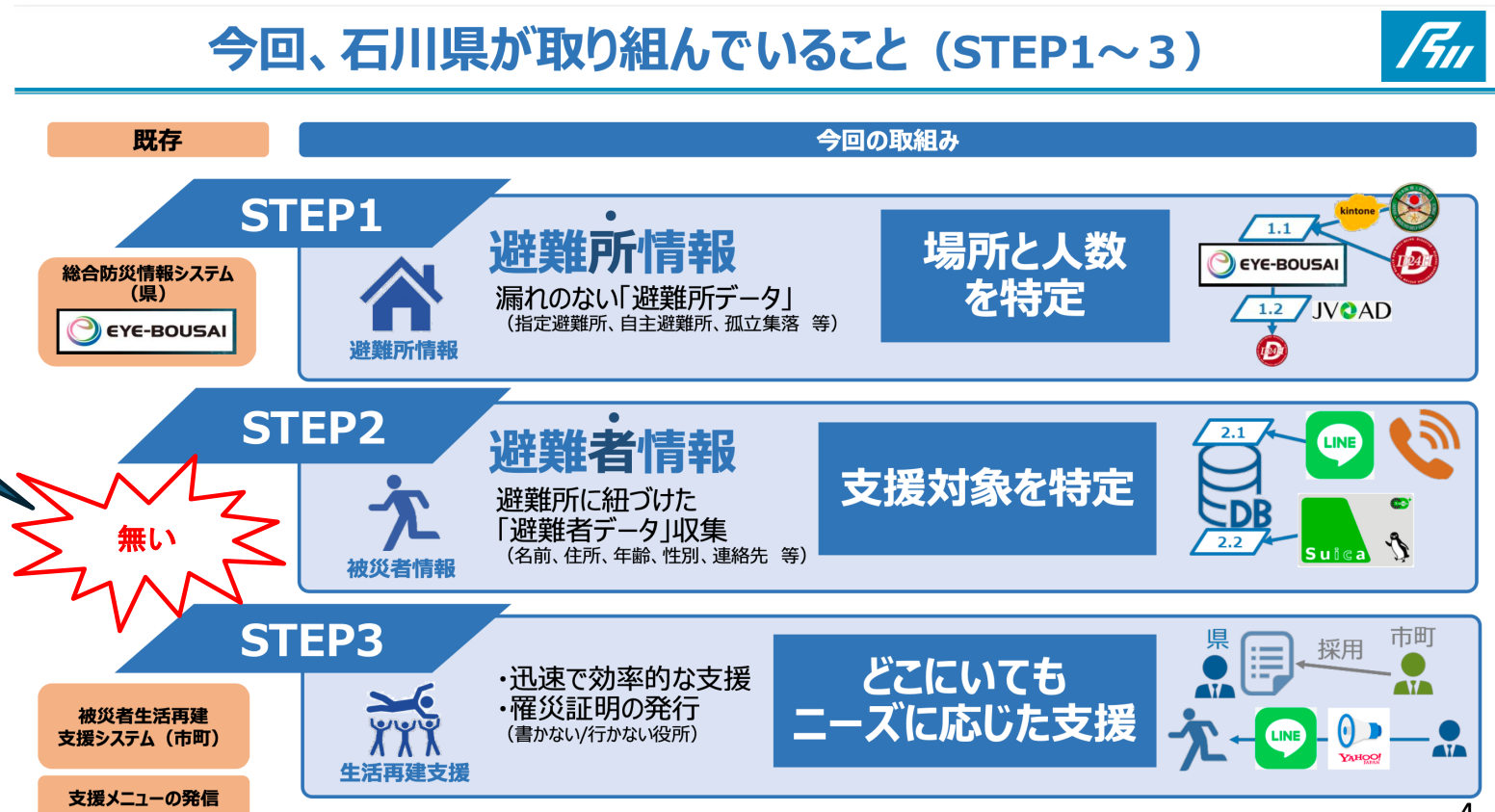
被災者台帳の世帯情報を利用し、個人情報を除いた状態で孤立集落周辺の世帯状況を可視化(白い点)



能登の対応をする中で気づいた穴 ～避難者個々人を網羅的に把握する仕組みが存在していない～

Step2で実施した避難者情報を広域で把握する仕組みが現時点で存在していない

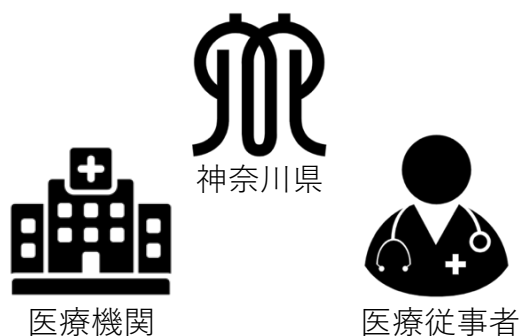
- ・被災者台帳は義務ではないが市町村が作製できていることにはある
- ・避難所毎の避難者リストはあるところにはある
- ・避難所に居ない被災者把握をする術は無い
- ・少なくとも広域に把握出来るように統合化は必須



無

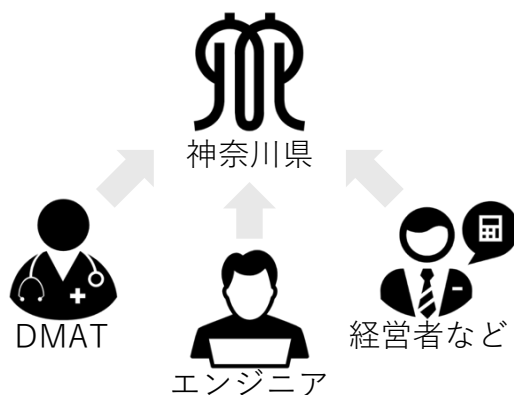
神奈川県コロナ対策のポイント

医療提供体制



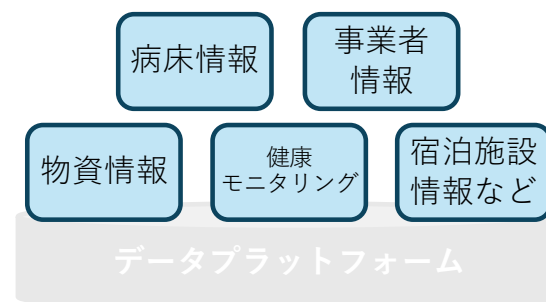
ダイヤモンドプリンセス号での経験を基に、中等症という**医療負荷の高い患者需要に応える**医療提供体制「**神奈川モデル**」を構想し、地域と連携しながら、発展的に実現

DMAT/外部人材登用



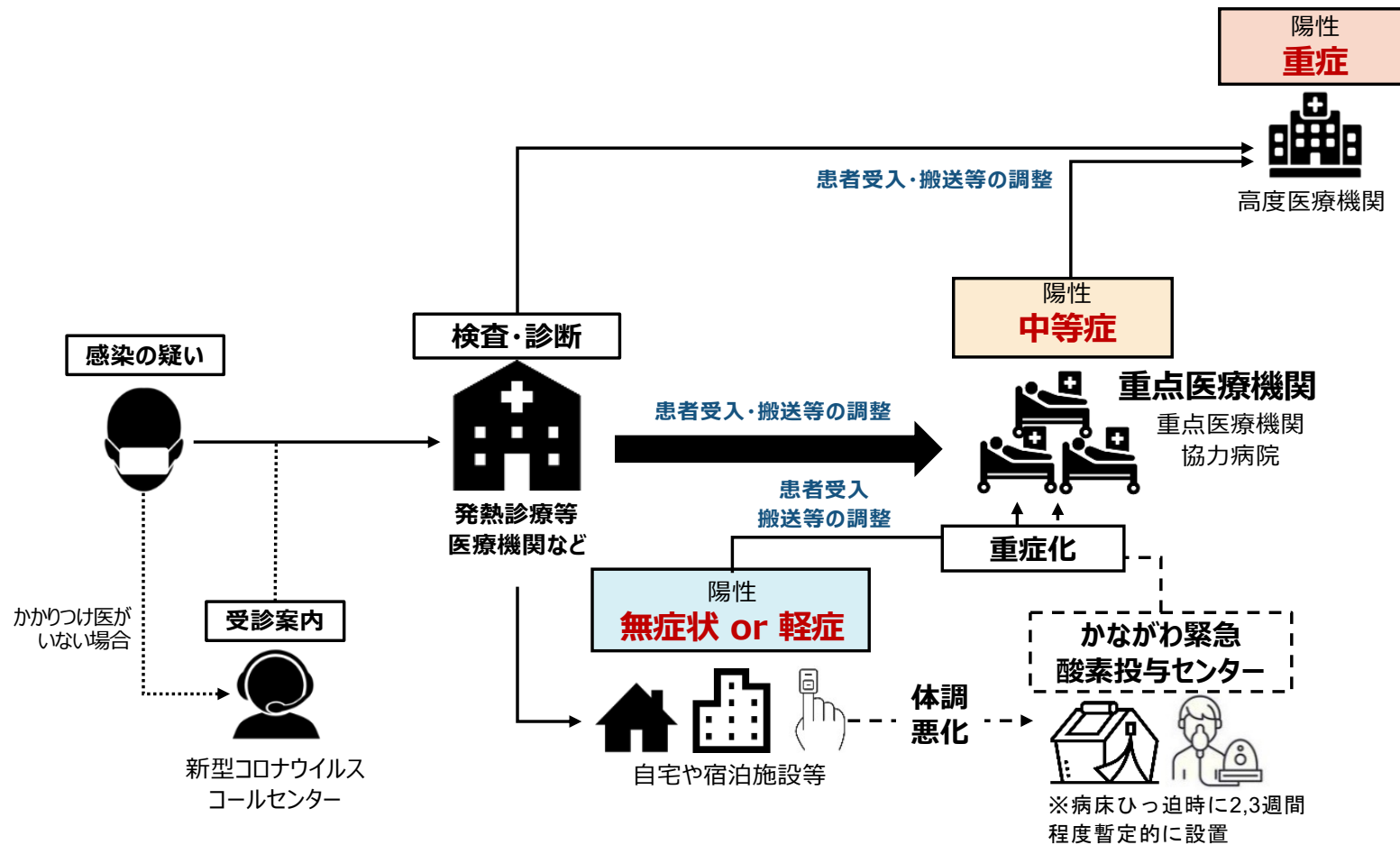
医療専門家の神奈川DMAT、戦略企画・ICT・広報に精通した顧問チームなど、**外部人材を積極的に登用**し、実現力の高い、機動的な組織体制を構築

データ/ICT/戦略企画



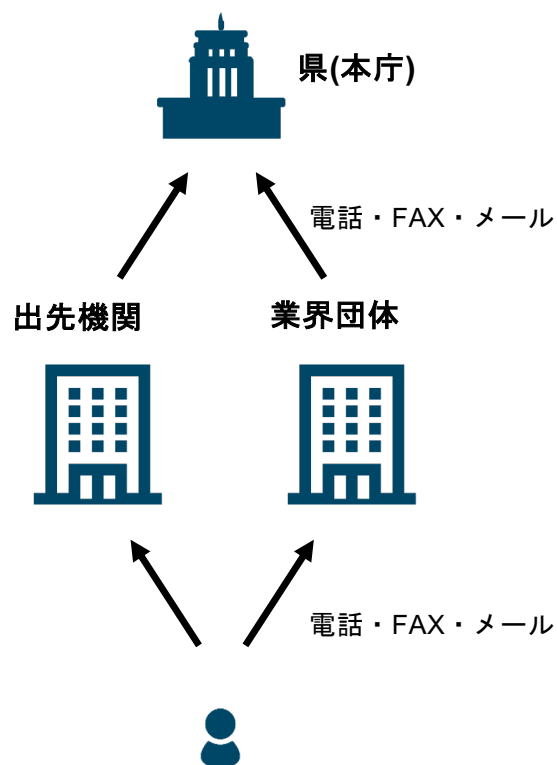
平時に利用していたICTツールを活用し、組織への調査・分析情報、個人の健康状態などの状況をタイムリーに集め、**データ駆動での戦略策定**を実現

緊急時医療体制の神奈川モデル

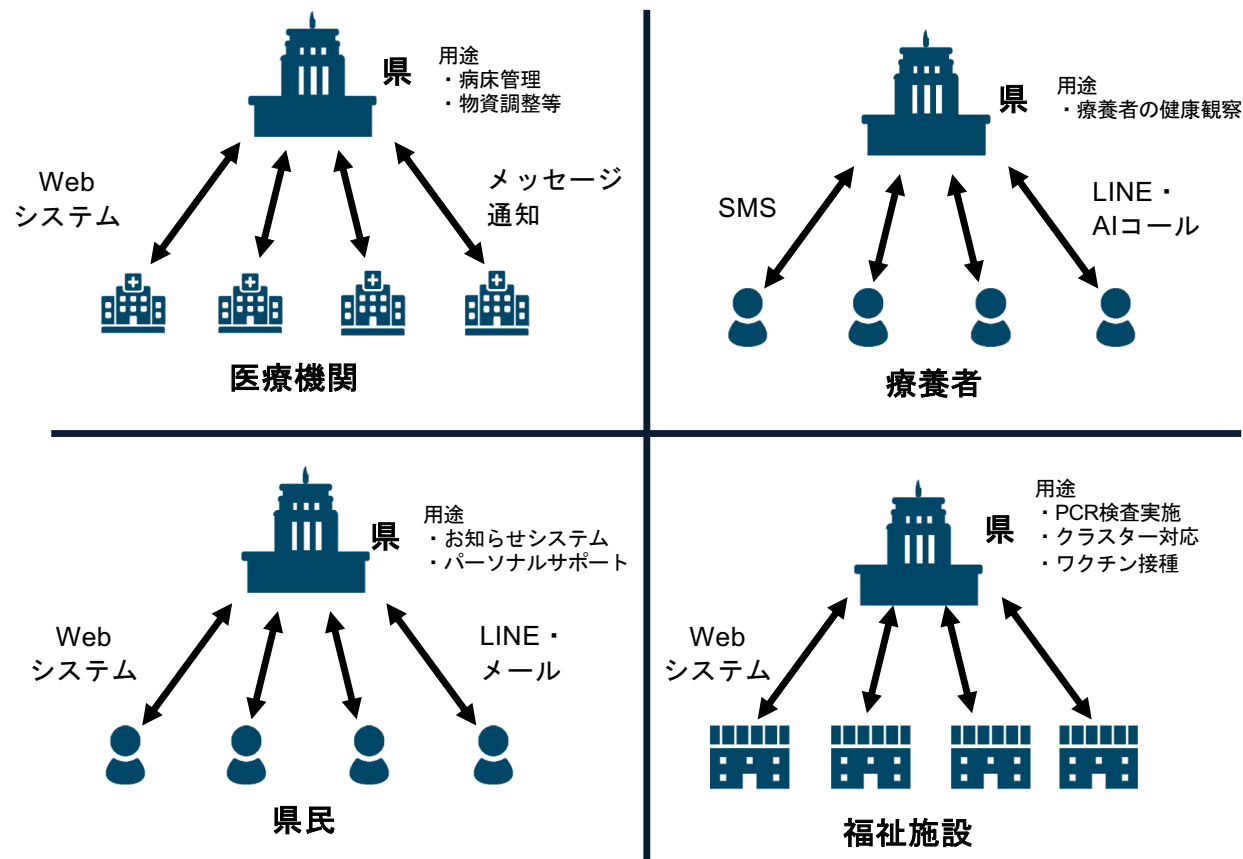


1 神奈川県がコロナ下で整備してきたDX基盤

間接コミュニケーション

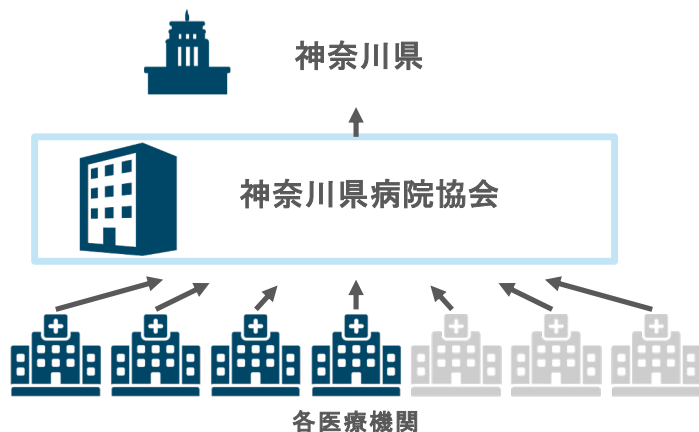


直接コミュニケーション



2 医療機関のリアルタイムでの病床状況把握・共有

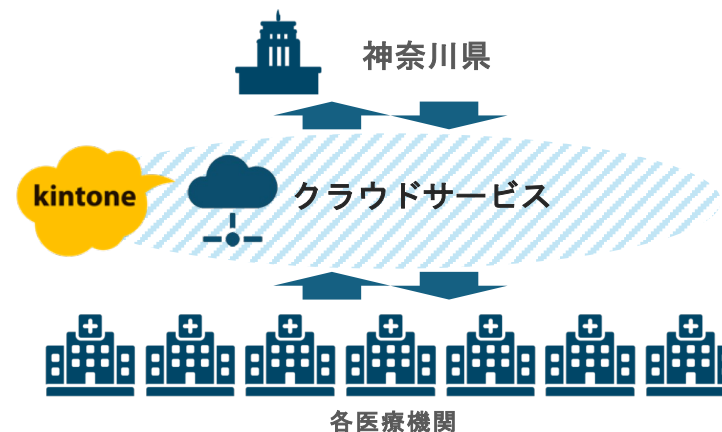
Before



- 中間団体が各医療機関の病床の利用状況をヒアリング
- 県には2週間前、回答率6割のデータが提出される

リアルタイムな病床の状況が分からず
適時・適切な病院支援につながらない

DX !



- 各医療機関がクラウドサービスKintoneに病床の利用状況を直接入力
- 入力された情報は県のほか、各医療機関同士がリアルタイムで閲覧可能

最新の状況に基づく適切な搬送調整に加え
医療機関の自発的な病床確保を促進

3 保健所業務の軽減：自宅療養者のフォローアップ自動化

Before



- 保健所の保健師が療養者一人ひとりに電話し、安否や健康状態を確認
- 聞き取り結果をExcelや紙に記録し、保健所ごとに取りまとめ

患者一人あたりの必要リソースが増え、患者増加に耐えられず機能不全に陥る

DX !

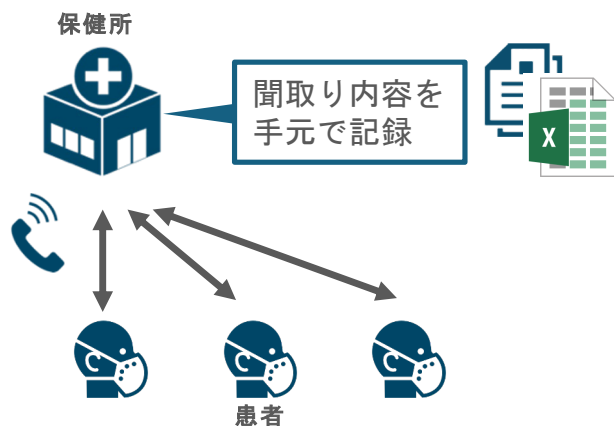


- クラウドサービスに登録された療養者にLINEメッセージやAIを使った架電を実施
- 収集した健康状態はクラウドサービスに記録し、担当者間でいつでも閲覧可能

療養者支援の全部署で最新情報を共有でき、迅速かつプッシュ型のサポートが可能になった

4 保健所ヒアリング負荷の軽減：県内統一Webフォーム化

Before



- 感染した患者の基本情報や療養場所の判断に必要な情報を、保健所が電話で聞き取り
- 聞き取り結果をExcelや紙に記録し、保健所ごとにまとめ

患者一人あたりの対応負荷が増え、検査等の他の現場業務が疎かになる

DX !

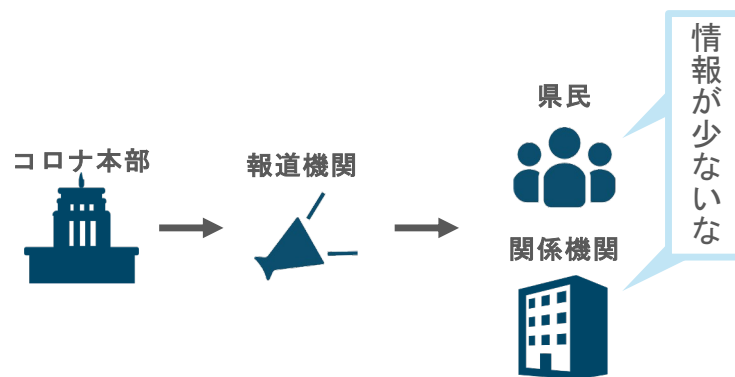


- 検査を受けた県民に、その場で保健所が必要な情報をWebフォーム入力してもらう
- 入力情報を基に、療養場所の判断や新薬治験の案内等、次の対応へスムーズに移

患者一人あたりの対応負荷を軽減することで、保健所職員が現場業務に専念できるようになった

5 県民向けの情報公開：オープンソース活用

Before



- 県民向けの情報発信はプレス対応を通じた最低限の内容にとどまる
- 関係機関でさえも、最新の情報を得るためには県本部に確認する必要がある

関係機関の間でも情報が錯綜し、県民からの問合せ対応に追われる

DX !



神奈川県新型コロナ対策
パーソナルサポート
(登録者150万人超)



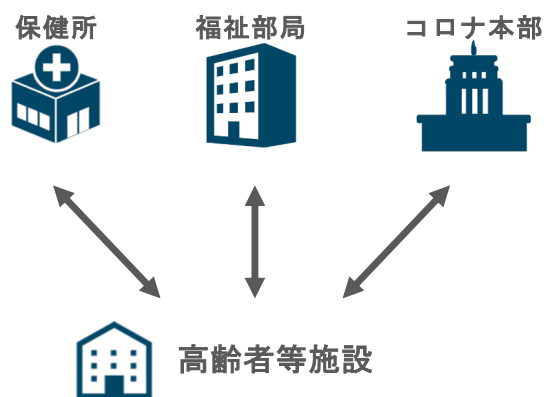
神奈川県「新型コロナウイルス感染症対策サイト」
<https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1369/>

- 県民向けのコロナ政策の最新情報を配信するLINE公式アカウントを開設（登録者150万人超）
- 毎日更新される感染者数や検査数などのデータを県民向け特設ページで公開

情報公開により基本的な問合せを減らし、
プッシュ型配信で県民の行動変容を期待

6 高齢者施設クラスター対策など迅速な情報共有

Before



- 陽性者が発生した施設は、保健所や県・市の福祉部局にも連絡
- 毎日各部局から状況の電話確認が入り、施設管理者の大きな負担に

高齢者等施設の状況が行政内部で共有されず、二重三重の手間が発生

DX !

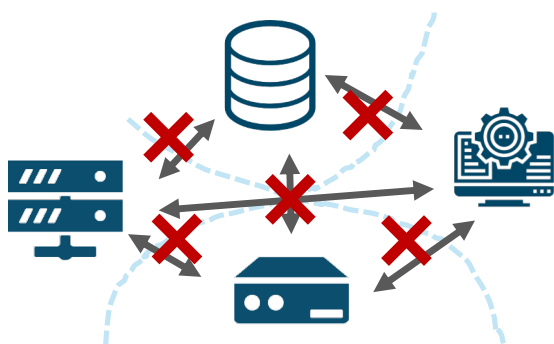


- 陽性者が発生した施設は、施設の状況をWebフォームで回答
- 施設からの回答内容をリアルタイムで行政各部局が閲覧し、必要な支援を開始

高齢者等施設からの報告が行政内部で共有され、プッシュ型の支援が受けられる

7 データ統合基盤による多様なシステム間データ連携

Before



- 用途の異なる複数のシステムで同じ患者の情報が入っていても、紐づいていない
- 単体のシステムでは情報が網羅されないため、体勢的な感染動向を分析できない

各システムの膨大な量のデータを十分に活用しきれなかった

DX !



- 複数システムを連携し、治療対象者の抽出や療養証明書発行の迅速化を実現
- 患者の陽性確定から療養終了までの情報を紐づけ、感染や予後の動向を内部で分析

業務で蓄積したデータをビッグデータとして活用し、県民に還元

防災DXの重要なKGI：災害関連死ゼロ ～能登地震対応で官民連携で実現させようとしたこと～

急性期を耐えた被災者が復旧期にかけて亡くなる事例（災害関連死）ゼロをKGIとして設定したい。

行政や支援機関が把握しきれない被災者をサポートし続けるための**デジタル技術**

どんな人が？

- ・ 要支援者
- ・ 高齢者
- ・ 後期高齢者
- ・ 独居者

今どこに？

- ・ 避難所(1次・1.5次)
- ・ 2次避難所
- ・ 自宅/知人宅
- ・ 車中泊等

どのような
状況にある？

- ・ 閾値設定
- ・ 既往歴
- ・ Suicaノータッチ
- ・ その他自由設定

誰によって？

- ・ コールセンター
- ・ 対口職員
- ・ 保健師
- ・ その他専門家等

何の支援を
受けている？
必要な支援は？

- ・ 様子見
- ・ 電話等による連絡
- ・ 訪問確認
- ・ 行政支援手続き

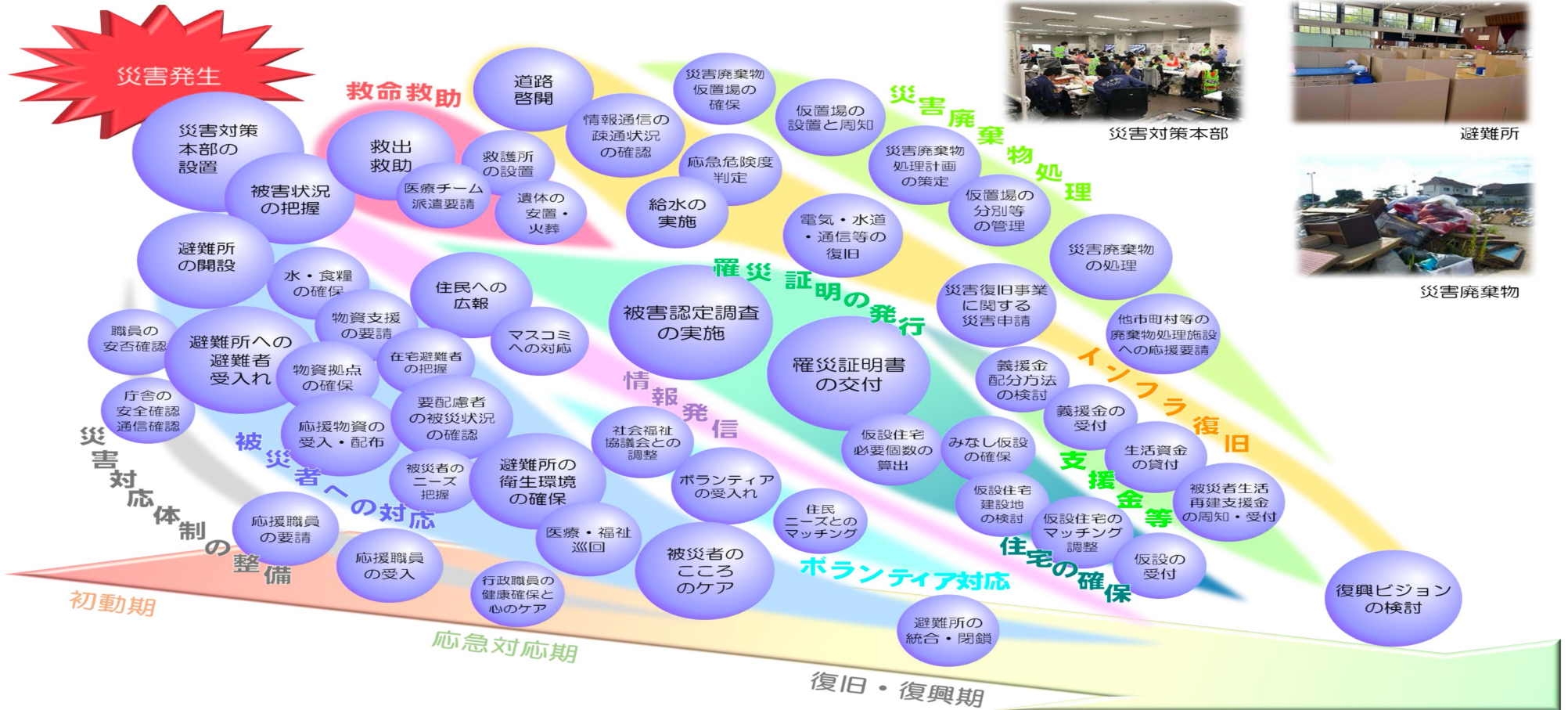
デジタルで全て把握することは不可能なことは前提

ただし、デジタルで対応完結出来る人を抽出可能で自動化も可能に

デジタルで空いたリソースを真に支援が必要な人向けに仕向けられる

現時点では被災者を管理する仕組みがないためにこれが困難という課題

デジタルデータ が全体業務をつなぐ潤滑油



災害対策本部

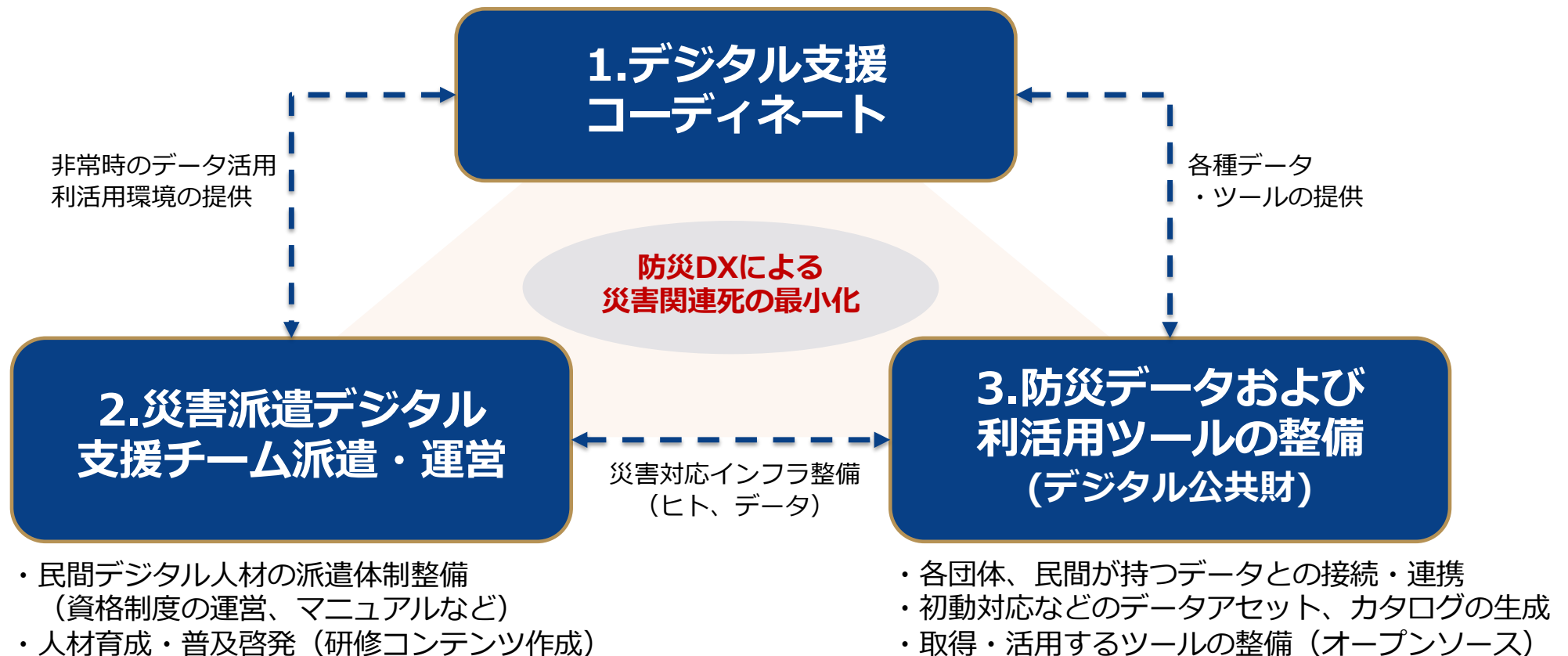


避難所



災害廃棄物

- ・ 民間支援組織等と被災（自治体）組織との連携調整



能登半島から南海トラフ・富士山噴火等広域災害へ

限られたリソースを最大活用するためにデジタル技術を使う以外の選択肢があるか？
デジタルでも官民連携は必須になるはずで、総力戦にならざるを得ないのでは？

- ・南海トラフ地震での支援は
- ・そもそも被災地に行けるか
- ・支援すべき自治体が多すぎる
- ・主要産業ベルト地帯が被災地

- ・能登半島地震での支援は日本各地から行われた
- ・県庁所在地の金沢市はほぼ無傷
- ・日本全国他地域は元気

そして、この災害大国日本で対応したデジタル技術は、世界で必ず通用する
防災DXを積極的に推進し、災害への対応力を上げつつ海外へ

周囲はDigital環境で完結する世界に 〇〇だけ取り残された世界観

「法で定められた手続き」 そのコストは誰が負担すべきか

デジタルは魔法や錬金術じゃないです。
デジタルは手品です。種も仕掛けもあるんです。

2024年2月28日
避難所DX実証w/デジ庁
@横浜



いつまでプッシュで物資を送り続けるの？

なぜ支援物資を行政が被災地に送り続けているのか／できるのか

被災地にはリテールストアはある。なぜ彼らを活用しないのか
リテールストアを復旧させて、彼らに流通を任せるべき。そうすれば被災地にお金が回る
被災者が必要とする支援物資の代金は行政が出せばよい→デジタルで支援出来る

目標は、発災後72時間は行政。その後は民間主体で早期の商流の復興へ

いつまで避難所で疲弊してるの？

南海トラフ地震の想定避難者数は1230万人（避難所は650万人）

なぜ仮設住宅が出来るまで数ヶ月も避難所に居なきゃならないのか？

通勤可能範囲まで広げればすぐ使える賃貸住宅はある
賃貸住宅関連のデータはある。デジタルでマッチングも容易。知識がある民間事業者のプロを活用
避難所滞在の避難者数を減らす→避難所インフラの負担も減らせられ、より重点的に支援可能

目標は、発災4日以内にみなし仮設へ入居してもらい災害関連死を防ぐ



防災チッカイギin能登 企画趣旨



- テーマ：
能登半島地震・奥能登豪雨災害の災害対応・復旧・復興を、頑張っている人・頑張った人・これから頑張る人たちの報告会
- 令和6年(2024年)に1月発生した「令和6年能登半島地震」から約1年半が経過しました
また、同年9月に発生した「令和6年9月奥能登豪雨災害」から約1年が経過しようとしています
- この災害対応と復旧・復興に取り組んでいる人たちが一同に会してこの1年を振り返りながらお互いを知り、これからの復興や次の災害に活かすための学びを得るための場です

イベント概要

防災チッカイギin能登の概要は次のとおりです。

テーマ	能登半島地震・奥能登豪雨災害の災害対応・復旧・復興に、 頑張っている人・頑張った人・これから頑張る人たちの報告会
参加者	能登半島地震・奥能登豪雨災害の災害対応・復旧・復興に取り組む人 (公共・民間・NGO/NPO等問わず)
イベント規模	100名～200名
開催場所	和倉温泉「のと楽」および東京サテライト会場「LODGE」
日時	6/2(月) 10:30～17:00
会費	無料
旅費	出席者負担



企画・運営体制

防災チッカイギの企画・運営体制はボランティア有志による実行委員会形式を採用しています。

実行委員長	臼田 裕一郎 (国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長)			
実行委員	江口 清貴 福島 直央 米倉 隆介	北野 菜穂 関 治之 杉井 正克	小林 誠 高田 佳紀 山本 純平	長倉 克枝 安田 健志
主催	一般社団法人耐災害デジタルコーディネーションセンター			
共催	AI防災協議会、防災DX官民共創協議会			
後援	一般社団法人 能登官民連携復興センター 国立研究開発法人 防災科学技術研究所			
事務局	PwCコンサルティング合同会社			
協賛	PwCコンサルティング 富士フイルムシステムサービス		東京海上ホールディングス 日本マイクロソフト	
	(他、調整中)			

企画：能登災害対応全員ピッチ

能登の各地や石川等の支援拠点で、災害対応・復旧・復興に尽力している/た各団体が集い、お互いの活動を知り・たたえあうことで、「お互いを上手に頼る関係性」を醸成・深化させるイベントです。



能登支援全員ピッチ

能登の災害対応・復旧・復興を行った団体に次の内容を発表いただきます

- ・ 自己紹介
 - ・ 能登でやったこと
 - ・ 能登でできなかったこと
 - ・ 次への提言
- 指定フォーマットに記載
(スライド数厳守)

発表予定者

政治家、中央省庁、被災自治体、支援自治体、NPO、NGO、支援団体（民間企業含む）、災害ボランティア、復興ボランティア、復興団体、等

時間

一団体5分

(5分でプレゼン強制終了とする仕組みを導入します)

想定団体数

50団体（1団体2名まで）



登壇予定者

登壇予定者については次のとおりです。
(調整中のため、変更可能性有)

あああ		あああ	
君嶋 里美	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	友田 景	株式会社 ノツグ
吉森 和城	内閣府 災害時情報集約支援チーム(I S U T)	灰谷 貴光	能登町役場
上田 啓瑚	一般社団法人 B O S A I E d u l a b	山本 亮	のと復耕ラボ
加藤 愛梨	株式会社 Mutubi	林 俊伍	現代集落
岩城 慶太郎	一般社団法人 能登の國百年の計	木村 充慶	有限会社ポムデーブ
森山 明能	一般社団法人 七尾青年会議所 / 七尾自動車学校	杉野 智行	ゲストハウス黒島
北村 優斗	合同会社 焼塩エイミー	本谷 悠樹	もとやスーパー
古矢 拓夢	農事組合法人 能登ふれあいガーデン	八木 淳成	いろは書店
伊藤 沙恵	合同会社 CとH	越後 龍一	株式会社 絶対そうしょ
清水 涼太	能登地震学生団体 わかものと	瀬沼 希望	特定非営利活動法人 ETIC.
小山 基	能登DMC合同会社	藤沢 烈	一般社団法人 能登官民連携復興センター
谷 遼典	合同会社 Break through	樋口 裕司	公益財団法人 日本財団
山口 眞司	株式会社 タイミー	—	—

チ **“カイギ”**